

ボーイズラブ回顧年表：ぶどううり・くすこ文責 【20161203版】

文献及びぶどううり・くすこ個人の記憶並びに確証が持てるであろう伝聞に基づく。  
出典は可能な限り明記。文中敬称は基本的に略。

ぶどううり・くすこ連絡先

→ twitter@xqo\_b / xqogm@live.in / 「シヨタやおい雑記」 <http://xqosy.seesaa.net>

○●○

1978年10月1日

『comic JUN』（サン出版・刊）創刊  
中島梓が『少年派宣言』と題した一文を寄せる。  
中島梓（栗本薫）の JUNE に対する姿勢・理念の礎とも言える  
一冊『美少年学入門』のはじまりである。  
以降彼女は 1983 年 11 月刊行の【復刊】 JUNE 13 号に至るまで毎号に  
『美少年学入門』を構成する原稿を寄せ続けた。  
後に『美少年学入門』は 1984 年 6 月に新書館から単行本化され、  
1987 年 11 月には集英社から文庫化。更に 1998 年 10 月には  
筑摩書房から文庫化された。  
参考データ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/comic\\_jun.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/comic_jun.html)

1979年2月1日

『comic JUN』3号、『JUNE』と改題され刊行される。  
以降誌名は『JUNE』に定着。これが所謂「大 JUNE」と通称されるもの。  
『comic JUN』2号に掲載されたブックガイド記事「世界 JUN 文学全集【西洋篇】」の  
続篇【日本篇】が「世界 JUNE 文学全集」としてこの号に掲載される。  
監修を担当したのはあかぎはるな（栗本薫）。

1979年4月1日

『JUNE』（『comic JUN』）通巻4号刊行  
編集後記にて誌名変更の理由が明かされる。  
《株式会社ジュンの商標と混同される恐れがあった為》との事。

1979年12月20日

同人誌『RAPPORTI（らっぽり） やおい特集号』刊行（発行責任者：波津彬子）  
収録された座談会（「らっぽり特別企画 やおい対談」）にてやおいの定義を  
冗談交じりに話し合う。現行の原義『山なし落ちなし意味なし』はここから  
由来するものか？  
なお座談会中には遡る事7年程前に既にこの定義に基づいた掌編が成立して  
いたとの証言もある。【再録；「小説 JUNE」2001年3月号/通巻129号】

1979年8月

『JUNE』一時休刊【国立国会図書館雑誌検索にて確認可能】

1980年10月5日

『ALLAN』（みのり書房・刊）創刊。アニメ情報誌『OUT』増刊号としてスタート。  
途中独立刊行化するも1984年6月・通巻22冊にて『JUNE』のライバル誌としての  
歴史を閉じた。同誌の歴史を探る事は同時にナマモノ同人草創期の歴史を探る事にもなる。  
また同誌の徐々に増量し濃密化する投書ページと百合に積極的に門戸を開いた  
後期の文通ページはそれ自体が興味深い資料である。  
同誌内容目録 <http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/allane79baee98cb2.pdf>  
同誌総集編内容目録 <http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/allanmega-mixe79baee98cb2.pdf>

1981年5月25日

『ふあんろーど』（ラポート・刊）5号掲載「ふあんろーど★くりにつく」にて  
回答文中に「シヨタコン」の文字が登場。（74ページ）

「シヨタコン」の初出。

※以降の時系列参照→『シヨタコンのゆりかご』

[http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/yurikago-tsuizouho\\_20100321.pdf](http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/yurikago-tsuizouho_20100321.pdf)

同書附表資料 [http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/yurikago\\_data-tsuizouho\\_20100321.pdf](http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/yurikago_data-tsuizouho_20100321.pdf)

1981年10月5日

『JUNE』、『劇画ジャンプ』増刊として復刊。  
以降『JUNE』ブランドは2012年まで形式を変えつつも継続。  
なおこの際刊行された『JUNE』復刊号【1981 No.1】収録の座談会において  
登壇者の安彦良和と同じく登壇者である竹宮恵子・作「風と木の詩」を  
アニメ化したいとの希望を提言。  
それを受けての事が『アニメージュ』9月号(徳間書店・刊)に安彦と椋尾篁が手掛けた  
「風と木の詩」のカラーイラストが掲載される、と座談会記事文末に案内が掲載された。

1982年1月

竹宮恵子、『JUNE』誌上で「お絵描き教室」を展開開始。  
(情報収集先:「竹宮恵子の図書館」北館  
<http://www.eurus.dti.ne.jp/~miyabi/kt-lib/north/north-illustessay2.htm>)  
この一連は後に角川書店発行『マンションネコの興味シンシン』及び  
『マンションネコの興味シンシン(続)』(ともに1984年発行)に再録され、  
後に筑摩書房から2001年に刊行された『竹宮恵子のマンガ教室』にも抄録された。

1982年4月8日

魔夜峰央原作『パタリロ!』、アニメ化されフジテレビ系列にて放映される。  
【全49話。1983年5月13日に終了。  
1982年10月9日放送第21回より『ぼくパタリロ!』と改題】  
原作は少女漫画誌「花とゆめ」(白泉社)掲載ではあるが男性同士の恋愛関係も  
重視されている世界観を内包した作品。その世界観を一切隠す事無くアニメ化された。  
1983年7月10日に原作典拠の映画作品『パタリロ! スターダスト計画』が  
劇場公開されているがこちらも原作の世界観を一切隠蔽する事無くアニメ化している。  
強いて言えば『パタリロ!』関連のアニメ化をもってBL及び耽美作品映像化の  
始まりと言う事も出来ようが、そう言う判断は2014年の時点でもほぼ為されて  
いない模様。

\*\*\*

『パタリロ!』と同じ様な立ち位置【男性同士の恋愛関係・疑似恋慕が展開に  
織り込まれているがボーイズラブ作品とは公認されていない】作品のアニメ化は  
他にもある。  
高河ゆん原作の『源氏』(1992年・全2巻)及び『アーシアン』(1989~1996  
・全4巻)、CLAMP原作の『東京BABYLON』(1992~1994・全2巻)を  
挙げる事が出来るだろう。  
それらをどう認識するかは現時点では個々の裁量に任されていると言える。

1983年10月5日

『小説JUNE』創刊。所謂「小JUNE」と呼ばれる存在。  
なお、この号以降折々に「蘭精果」の号を名乗る文人がJUNEを題材にした  
短歌を寄せていたとの事。参照 → [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_n/june.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_n/june.html)

1984年1月1日

『ファンロード』84年1月号(ラポート・1984.1.1発行)〈ショタコン特集〉冒頭にて  
「少年探偵団コンプレックス」語源説否定される。  
同説が提唱された場所については明記されていない。

1984年1月

『JUNE』誌上に中島梓(栗本薫)を道場主とする小説講座「小説道場」開設。  
この連載の一連は後に新書館から3冊組で単行本化(1986~1989)され、  
後に光風社出版より新版として4冊組で再刊(1992~1997)された。

1987年1月24日

別冊COMIC BOX 1『つばさ百貨店』(ふゅーじょんぷろだくと・刊)刊行  
現在の二次創作ジャンル別アンソロジーの祖であると思われる。A5より幅が狭い  
ムック形態。

1987年7月1日

別冊コミックボックス 3『つばさ五段活用』—つばさ同人誌傑作アンソロジー—  
(ふゅーじょんぷろだくと・刊)刊行。  
こう言う内容の刊行物に『アンソロジー』と冠した祖と思われる。A5より幅が狭い  
ムック形態。

1987年8月8日

『コミックマーケット 30's ファイル』（青林工藝舎・刊 / 2005.7.25 初版）  
384 ページの資料によればジャンルコード制度導入後2回目、コミックマーケット 32 の  
時点でコミックマーケット内のジャンル区分として『創作（JUNE）』が存在した事が  
明示されている。

【於：東京流通センター大展示場。1987.8.8～1987.8.9】

※コミケカタログ研究家・タルト氏の指摘による訂正記述。御指摘多謝。  
なお、タルト氏が実際にカタログの現物を確認した所、コミックマーケット 31 の時点で  
配置・カタログ上のジャンルとして『JUNE 耽美』が存在したとの事。  
事前案内では『創作（女性）』となっていたが恐らくジャンルコード制を  
初めて導入した際の混乱故起きた現象ではないか、との事。

【於：東京流通センター大展示場。1986.12.27～1986.12.28】

また、その前に開催されたコミックマーケット 30 の時点でカタログ上に  
『少女漫画（特に耽美系中心）』と言う区分が見られたとの御指摘も戴いた。  
重ね重ね多謝。

【於：晴美国際貿易センター。1986.8.10】

タルト氏Twitter → <https://twitter.com/Tarte41>

1987年9月1日

別冊コミックボックス 5『星矢危機一髪！（あぶないせいや）』  
—星矢同人誌傑作アンソロジーII—（ふゅーじょんぷろだくと・刊）刊行。  
前月刊行された別冊コミックボックス 4『星矢に夢中！』—星矢同人誌傑作アンソロジー—に  
対する感想はがきの内容を巻末に収録。その中でやおいに対する読者の抵抗感も  
そのまま掲載される。

1987年11月26日

安彦良和監督により竹宮恵子作の漫画『風と木の詩』がアニメ化され  
オリジナルビデオ作品として発売される。DVD 化はされていない。  
作品タイトルは『風と木の詩 SANCTUS —聖なるかな—』  
全編が映像化された訳ではなく、物語冒頭部分から内容を起こしている。  
なお、竹宮作品でこれに先立ってアニメ化【1981年】された  
『夏への扉』作中では主人公の少年に懸想した同輩男子が関係を持つ事を  
迫る原作描写がそのまま映像化されている。

1988年3月

青磁ビブロス創業。

（1997年にビブロスに社名変更→2006年に倒産後リブレ出版として再生）

1988年3月26日

金子修介監督・岸田理生脚本の映画作品『1999年の夏休み』劇場公開される。  
萩尾望都・作の漫画『トーマの心臓』をモチーフにした作品。  
女優の演技に声優が声を当てる形式で少年の世界を描き出した。  
<http://movie.walkerplus.com/mv17745/>  
[http://www.shusuke-kaneko.com/f\\_graphy/filmography/1999sum.html](http://www.shusuke-kaneko.com/f_graphy/filmography/1999sum.html)  
後に角川書店ルビー文庫より同題の岸田理生によるノベライズが刊行された。  
【1992年11月刊行】

1988年4月20日

FRESH PACKS『メイドイン★星矢』—星矢同人アンソロジー—（青磁ビブロス・刊）  
刊行。  
青磁ビブロス（後ビブロス→リブレ出版）創業間もない頃の仕事。  
この時点でカバー付 A5 版・ISBN 付と言うアンソロジーの流通形態が整う。

1988年9月20日

小学館プチフラワーコミックスより西炯子の短編マンガ集『天使にならなきゃ』刊行。  
収録作 6 篇中表題作を含む 4 篇が JUNE（大 JUNE）掲載作品。  
作品再録状況の参考資料として採録。

1988年10月5日

小説 JUNE 増刊号として出発した季刊誌『ロマン JUNE』創刊される。

1997年12月までに全16冊が刊行される。

版元を同じくして居た男子同性愛者向け雑誌「月刊さぶ」（当時）とのコラボレーション。

「さぶ」掲載作品の挿絵を JUNE 風なそれに差し替えるなど

意欲的な実験の場として作用した。

※私家版ロマン JUNE 通巻目録：ぶどううり・くすこデータ入力

<http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/e383ade3839ee383b3june79baee98cb2.pdf>

【さぶ：1974年11月創刊 → 1975年4月月刊化 → 2002年2月休刊】

1988年11月

この界隈初の音声メディアと言えるカセット JUNE の創刊。

「鼓ヶ淵」（三田菱子原作）が第一号。

往時大 JUNE でも作品を描いていた中田雅喜がエッセイ漫画「ももいろ日記」の一編に作品視聴所感を描き残している。

（所収：「ももいろ日記 下」ユック舎・批評社 / 1991.1.10 初版、71～74 頁）

1989年1月1日

ふゅーじょんぷろだくとより漫画誌『KID's』、『COMIC BOX』別冊として創刊。

同社発行の二次創作アンソロジー寄稿作家によるオリジナル商業漫画誌。

現在で言う行為を伴わない匂い系ボーイズラブも範疇に含むが、ベースは少女漫画。

参照データ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/KIDs.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/KIDs.html)

隔月刊項で通巻12冊目にして独立創刊を果たすも、データ検索の限りでは

1990年末には廃刊に至っていたものと思われる。

1989年2月22日

東芝 EMI よりおおよ和美キャラクター原案による OVA 『BE-BOY KIDNAPP' N IDOL』発売。

作風からボーイズラブアニメとは明言されていなかった模様。

同作品は2004年10月にバンダイビジュアルにてDVD化された。

1989年6月20日

ジョン＝フォックス・著；越川義明・訳『潮騒の少年』、新潮社より刊行。

ゲイ自認のある少年を主人公にした小説。時流の参照として紹介。

1989年12月24日

別冊宝島104『おたくの本』【JICC 出版局・刊】に以下の二記事掲載。

「やおい族 美少年ホモマンガに群がる少女たち！」（梨本敬法・筆）

「ロリコンとやおい族に未来はあるか!? 90年代のセックスレポリビューション」

（上野千鶴子・談話）

“やおい族”が活字となった端緒は後述の米沢嘉博の記述といずれが先か？

1990年1月1日

コミックマーケット第2代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』

（自由国民社）掲載「マンガ文化用語の解説」文中で《少女アニメファンの一部を

“やおい族”とよぶこともある》と言及。

1990年1月25日

尾崎南作『絶愛—1989—』第1巻、集英社より刊行。

実質的なボーイズラブ作品が少女漫画誌に掲載されたと言う点が往々にして

着目されるが、尾崎自身が商業作品を描くのと並行して集英社より刊行されていた

少年漫画『キャプテン翼』のやおい【男性キャラクター同士の恋愛関係に重点を

置いた二次創作】作家であり続けたと言う事実もある。

『絶愛—1989—』及びその続編『BRONZE zetsuai since 1989』は

尾崎のキャプテン翼二次創作と時に同人誌上で交錯しており、

またキャラクター造形にもいささかの影響があったと思われる。

シリーズは紆余曲折を経て5巻＋14巻＋『BRONZE 最終章』＋番外編『Bad Blood』

と言う形で2011年9月に完結した。

OVAは1992年以降2年毎に計3作制作されている。

1990年4月

青磁ビブロスより雑誌『PATSY』及びPATSYコミックス創刊。

少女漫画レーベルではあるがその範疇にはボーイズラブ風味の作品も含んでいた。

あくまでもボーイズラブ専門レーベルでは無い。

1990年8月1日

『GUST』（桜桃書房）、アンソロジー形態で創刊。キャッチフレーズは“YAOI COMIC”。同誌は後に雑誌化されるも休刊に至り、内実は2003年に創刊された『GUSH』（海王社）に継承され現在に至る。  
参照データ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/gust.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/gust.html)

1990年8月25日

JIGEN・文苑堂より

『コミック版 同人サークルせれくしょん Vol.1』【スタジオ YOU 編】刊行。  
コミックマーケット参加サークルではなく、スタジオ YOU 主催イベント参加サークルよりのセクションである模様。アンソロジーを除くサークルガイドとしては先駆的存在か？  
同人誌通販の為のカタログとしての機能も併せ持つ。

1990年10月31日

エドモンド＝ホワイト・著；柿沼瑛子・訳『ある少年の物語』、早川書房より刊行。

ゲイ自認のある少年を主人公にした小説。

1990年代、この書を嚆矢として早川書房よりゲイを主人公とした小説が多く訳出刊行される様になった、と思われる。

1990年11月2日

桑原水菜作のSF伝奇ライトノベル『炎の蜃気楼（ミラージュ）』第一巻が  
集英社コバルト文庫より刊行される。

<http://www.amazon.co.jp/dp/4086114798/>

コバルト文庫の性格上当初は BL 分類されていなかった模様。

作中要素の進展加減により作品の立ち位置が変化したものと思われる。

出版区分上はライトノベル分類か？読者は BL と認識している層が大半の模様。

本編最終巻は2004年4月7日刊行の『千億の夜をこえて』。第40巻にあたる。

<http://www.amazon.co.jp/dp/4086004127/>

また番外編・写真紀行・漫画版・イラスト集を生み出し、本編終了後も

数シリーズの外伝が生み出されて後日に続く。

2002年にはCS放送・キッズステーションにてアニメ化され、

2004年には3巻組OVAが製作された。

熱狂的に作品を愛する読者層を生み出し、その人々はミラジェンヌと自称したり  
呼称されたりする。

1991年1月1日

コミックマーケット第2代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』

（自由国民社）掲載「マンガ文化用語の解説」文中で《やおい》を独立項目として解説。

“ヤマなしオチなしイミなしの略であり、ショタコンと少年愛路線（JUNE派）が結びついて

生まれたもの”とほぼ断定。この基本定義は2002年版で米沢が解説員を退くまで変化せず。

なお、米沢はショタコンの語源について解説文中でふぁんろーど提唱の

「正太郎コンプレックス」を採用している。

1991年4月1日

同人サークル「吉祥寺企画」を前身とする出版社・冬水社が創業される。

<http://www.tosuisha.co.jp/enterprise/company.html>

但し最初から冬水社の社名を使用していた訳ではなく、ある程度の時期まで

株式会社吉祥寺企画として運用されていた模様。

→ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/ichisuki.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/ichisuki.html)

[http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/Racish.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/Racish.html)

[http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/Luiy.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/Luiy.html)

国立国会図書館の検索にて出版者：吉祥寺企画・出版者：冬水社と言う条件で

検索した所では現社名になったのは1996年5月以降だったのではないかと

うかがえる。

1991年4月20日

有限会社すたんだっぷ出版部（代表：荒木立子/あらかりつこ）がオリジナル

アンソロジー『Boy Beans』SPRING 1を刊行。

“女のコによる女のコのための男のコの本”“男のコどうしだっていいじゃない”と

表紙に謳う。なお、巻末広告には10月刊行予定の次号刊行予告が掲載されているが

実際は刊行されていない。

10月刊行予定号の内容を一部改変されたものが同年12月、白夜書房から

「イマージュ」として刊行された、と資料からは読み取れる。

なお、『Boy Beans』誌面に「BOYS LOVE」と言う語彙は出てこない。

参照データ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/boy\\_beans.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/boy_beans.html)

1991年9月30日

ふゅーじょんぷろだくとより『COMIC BOX Jr. (コミックボックスジュニア)』が創刊された模様。「特集・田村みゆき」が掲げられていた模様。

【ふゅーじょんぷろだくと公式サイト <http://www.comicbox.co.jp/> を WebArchive で遡上して内容を確認し、大阪府立中央図書館内国際児童文学館の蔵書検索によって刊行日を確認】

1991年12月10日

『イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。

キャッチコピーに“BOY'S LOVE COMIC”と冠する。

「ボーイズラブ」と言う言葉の初出であると考えられる。

考案者は編集プロダクション『すたんだっぷ』代表・荒木立子（白城るた）とされている。

【2004年8月、漫画家の河内実加が自身のWEB日記で『“ボーイズラブ”はあらかりつこ（荒木立子）が命名したもの』（大意）と言及。

MacaMica-まかみか Mika Kawachi's Talking

<http://www.asahi-net.or.jp/~rj4m-kwc/>

DIARY→OLD→2004年8月→6日付記事】

ただし現在の定義そのものではなく「耽美」或いは「JUNE」の置換語と認識されていた節がある。

参考データ [http://www.mjakk.jp/gabacho/june\\_c/image.html](http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/image.html)

1991年12月10日

勁文社より神崎春子の小説『瞳に星降る』が“耽美小説 SERIES”の

初回配本として刊行される。この傾向の商業区分としての《耽美小説》は

ここに始まったものと思われる。

このシリーズはハードカバーであったが新書版の大きさであり一段組であった。

現行のBLノベルス版版組の原型になったのでは無いかと思われる。

1991年12月20日

雑誌扱いアンソロジー『b-Boy』（青磁ビブロス・刊）創刊。

「ボーイズラブ」の文字は誌面に一切出てこない。

1992年初頭

『JUNE』関連の発行元がサン出版からマガジン・マガジンに移管されたと思われる。

1992年4月

白夜書房が“白夜耽美小説シリーズ”刊行を開始。

1992年6月30日

『小説イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。

キャッチコピーに“BOY'S LOVE NOVELS”と冠する。

のちの雑誌『小説イマージュ CLUB』（白夜書房→コアマガジン・刊）である。

但しここに掲載された作品は概ね「耽美」と解釈されていた様子。

「ボーイズラブ」と冠した作品もレーベルも往時はなかった。

なお、この本にはSF小説家・野阿梓が後に角川書店ルビー文庫の一冊となる

『ミッドナイト・コール』第1作を寄稿している。

（文庫化上梓は1996年6月1日）

JUNE 関係者を除いては初の男性作家執筆によるBL作品であるか？

1992年8月

マガジン・マガジンより『間の楔』OVA第一巻が発売される。

この界隈初のアニメ化作品と捉えて良いかと。

なお2012年1月18日から同年4月18日にかけてはポニーキャニオンより

キャストを一新した新版アニメが4巻構成で発表された。

\*\*\*

ボーイズラブという括りで考えるならばここから約2年後、桜桃書房より発売された

『おさかなはあみの中』（原作：乱魔猫吉 / 1994.7.20 発売）を嚆矢と捉える

見方も出来る。

1992 年 8 月

日本 SF 大会【大会毎愛称：HAMACON】の自主企画として

『やおいパネルディスカッション』が開催される。

記録：[http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi\\_pd.htm](http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi_pd.htm)

【ミリオン出版『DEEP』創刊号（1993 年 9 月）にも掲載有】

以後 SF 大会の自主企画として毎回開催された。

2013 年には独立企画化し、2013 年 9 月 29 日・東池袋の

コミックカフェ・cafe801【カフェハチマルイチ】を会場に

『やおいこん #01』として開催された。

<http://gender-sf.org/yaoicon/yaoicon01.html>

1992 年 9 月 28 日

田中たみい『スイマー、千年の夏。』が太田出版より刊行される。

キャプテン翼のやおい同人誌の再録本。巻末に発行人・大塚英志による解説。

1992 年 12 月

角川文庫よりルビー文庫創刊。

但し純然たる創刊ではなく先行して存在したスニーカー文庫（87 年創刊）からの独立創刊と言う形であり、更に言えば JUNE（後に BL も取り扱う）専門レーベルとして創刊された訳でも無い。

スニーカー文庫に於いても栗本薫「終わりのないラブソング」 / 三田菱子「鼓ヶ淵」 / 尾鮭あさみ「舞え水仙花」 / ごとうしのぶ【タクミくんシリーズ】はじめ原田千尋や野村史子らの諸作品が刊行されていた。（1990 年 2 月頃以降とみられる）

これ等諸作品はルビー文庫に移行した。

なお創刊から暫くの間のラインナップを見る限りでは集英社コバルト文庫の発展形を目指していたのでは無いかと考えられる。

1992 年 12 月

青磁ビブロスより BE×BOY コミックス創刊。

ボーイズラブ漫画の専門レーベルとしては第一号と認識して良いかと思われる。

浜田翔子『夢の子供』は第 1 巻が PATSY コミックスから刊行され、第 2 巻以降こちらのレーベルで刊行。後に第 1 巻もこちらから再刊された。

1992 年 12 月 25 日

二見書房より耽美小説シリーズとして“Velvet Roman シリーズ”刊行開始。

初回配本された神崎春子『ベイシティ・ブルース』は元々『小説 JUNE』及び同じサン出版から刊行されていた同性愛者向け雑誌『月刊さぶ』に掲載されていた作品である。

また同作品は後年二見書房が創設したボーイズラブ作品レーベル“CHARADE BOOKS”にボーイズラブ作品として採録された。

1992 年 12 月 29 日

『コミックマーケット 30's ファイル』（青林工藝舎・刊 / 2005.7.25 初版）

167 ページによればコミックマーケット 43の時点でコミック内での

ジャンル区分として『創作（JUNE）』が存在した事が窺える。

【於：東京国際見本市会場。1992.12.29 ~ 1992.12.30】

※コミケカタログ研究家・タルト氏の指摘によりコミックマーケット 31

（1986 年 12 月末）の時点で配置ジャンルとして『JUNE 耽美』が存在したとの事。

往時状況は改めて遡上して記述。タルト氏の御指摘に多謝。

タルト氏 Twitter → <https://twitter.com/Tarte41>

1993 年 1 月 9 日

白夜書房より『コミケーしょんらんど』（すたんだつぷ・編）刊行される。

【執筆者：めで鯛・常盤易成・沢田梢・石崎有希子・Dr. モロー】

往時のコミックマーケット及びやおいも含めた同人誌の世界を垣間見る事が出来るギャグフィクション仕立ての現場報告。

1993 年 2 月【日次不詳】

ふゅーじょんぷろだくとより

『上田信舟+藤たまき—真田シスターズ 同人作家コレクション 1』

（ISBN:489393127X）が刊行される。

現在まで各社で連綿と続く同人作家商業版個人選集の刊行はここに始まると思われる。

1993年2月20日

SF 小説家・野阿梓、初の耽美（やおい）単行本となる『月光のイドラ』を中央公論社【現・中央公論新社】より上梓。

JUNE 関係者を除いては初の男性作家執筆による作品単行本化であるか？※（やおい）の註書きは野阿梓本人ホームページ内の記述に因った。

野阿梓ホームページ Self-Reference 1990 年項より。

<http://homepage3.nifty.com/Noah/noah.htm>

参考 <http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoui.htm>

1993年3月20日

漫画家・佐藤真理乃が単行本『えんじえる大戦争』をスタジオ・シップより上梓。

【断続連載作品。作品初出は90年から93年初頭にかけて】

往時のナマモノやおいの世界を創り手の側から記録したと言う体の作品。

【作中取扱いジャンルのモデルとなったのは TMN と B'z 】

1993年4月20日

白夜書房より『耽美文学・ゲイ文学ブックガイド』【柿沼英子・栗原知代 編著】刊行。

総勢 20 人のライターによる往時時点の精選文学ガイド。

タイトル通り往時隆盛し始めた耽美・JUNE 小説以前のゲイ文学にまで視野を広げ、自己陶醉に基づく賛美を極力排して編まれた一冊。

2013 年現在、再版・復刊はされていない。

1993年5月

青磁ビブロスより BE×BOY ノベルズ創刊。

ボーイズラブ作品を軽装ノベルズ形態にした初めてのレーベル。

1993年5月22日

太田出版よりイトウセイコ著『ダウン系 1』が刊行される。

当時の実在中堅漫才師（当時）であったダウタウン【浜田雅功・松本人志】周辺から想を得た二次創作を収録した一冊。

イトウセイコのダウタウン二次創作（界限用語で言う「ナマモノ」の一種）は最終的に4冊商業出版で刊行された。

\* 『ダウン系 2』（1994年5月30日初版 / 太田出版）

\* 『イトウセイコ 同人作家コレクション 8』

（1995年2月初版 / ふゅーじょんぶろだくと）

\* 『ダウン系 3』（1996年1月31日初版 / 太田出版）

1993年8月1日

角川書店あすかコミックス DX より中田雅喜『蠍座の少年』刊行。

JUNE 初出のシリーズ作品ではあるが継続して『獅子座の男』『双子座の天使』

『牡牛座の恋人』『魚座の騎士（ナイト）』とあすかコミックス DX にて

刊行され続け、そのまま現在は品切れ。

あすかコミックス DX より BL 用レーベルの CL-DX が分岐した事実との

因果関係は不詳。

1993年8月25日

小学館・てんとう虫コミックスより刊行の室山まゆみ・著『あさりちゃん』42巻に

「やおいマンガでキャー【白抜きハート記号】」と題する挿話が採録される。

主人公がコミックマーケットにてやおい同人誌【作中註から二次創作を指す狭義のやおいと思われる】を購入し、自作を試みるが…と言う内容。

本誌掲載は前巻刊行の1993年3月以降、あるいは1993年年内であるか？

【刊行日は奥付の初版日に拠った】

なお、室山まゆみは同年6月に小学館パレット文庫より BL 寄りのコピーを付されたティーンズ小説『おこげっ娘ラブ』を上梓している。同年9月にはシリーズ続刊にして

現時点の完結編とされる『おこげっ娘パニック』を上梓。

94年8月刊行の『あさりちゃん』45巻では上記二冊の小説上梓に触れられ

（「作者のぺえじ 10」154頁）、また巻末掲載の「作者のぺえじ 13」に於いては

昔描いたやおい同人誌原稿を復刻して希望する読者宛へのプレゼントに供する様になった顛末が記されている。

1993年10月5日

光風社出版より實吉達郎・著『本朝美少年録』刊行される。

小説 JUNE 掲載の美少年についての評伝エッセイの一部をまとめたもの。

1993年11月

コミック雑誌『magazine BE × BOY』（青磁ビブロス）独立創刊。



1993 年 11 月 1 日

CD-JUNE の一点として『間の楔 DARK-EROGENOUS』がマガジン・マガジンより通販専用でリリースされる。この界隈初のCDメディア作品と思われる。

参照資料：

『 JUNE 』 1993 年 11 月号（ 73 号）「間の楔 NEWS」、1995 年 9 月号（ 84 号）裏表紙

\*\*\*\*\*

ボーイズラブと言う括りで限定するならばほぼ一年後の 1994 年 12 月 21 日に BE-BOY VIDEO（青磁ビブロス）からリリースされた【取扱い：大映ダイレクトサービス】

『 LESSON xx ～ 5 回目でやっとサクセス～』（原作：おおなぎえい；CD 用

書き下ろし作品）を嚆矢と捉える事も可能かと。

この原作は後におおなぎえいの著書『 LESSON XX 2 』に採録された。

1994 年 1 月 6 日

太田出版より『コミケ作家ガイド』刊行。執筆者総勢 16 人。

往時のコミックマーケット参加やおいサークルの現状にアンケート・インタビュー

及び考察で肉薄した。故・鳥羽笙子が装丁画を担当。

1994 年 1 月 15 日

桜桃書房より『サークルガイドブック』刊行。

キャッチコピーに“同人サークル 500 以上掲載 !!”と謳う。

やおいサークルのみと言う視点ではなく、女性作家を擁するサークルを取り扱うと

言う視点で編まれたものか。

作家及び同人誌即売会（COMITIA）、印刷所（曳航社）のインタビュー採録。

1994 年 3 月 1 日

雑誌『Charade』（二見書房・刊）創刊。

キャッチフレーズは“BOYS' LOVE for GIRLS”。

白夜書房以外で「ボーイズラブ」と言う言葉を使った嚆矢となる。

定義は明示されていないが現行にかなり近いものであると考えられる。

1994 年 5 月 5 日

芸文社より『友愛コミックガイド』【美青年探究倶楽部・編】刊行される。

現在で言う（BL と公認されていないものも含む）匂い系 BL コミックガイド。

1994 年 8 月 1 日

マンガ情報誌『ばふ』（雑草社）8 月号にて

特集「創刊ラッシュで戦国時代突入—『BOYS LOVE MAGAZINE』完全攻略マニュアル」が

組まれる。（52～60 ページ）

「ボーイズラブ」と言う言葉の伝播に一役買った特集では無いかと思われる。

また、分野を指す言葉として「ボーイズラブ」が共有されたのもこれ以降とされる。

既存の『BOY'S LOVE』を再録せず新たに『BOYS LOVE』を編集部が共有語として提示。

参考文献：『ライトBLへようこそ』桜雲社・編著 / アスペクト / 2012 年； p140

『腐女子語事典』かつくら編集部 / 新紀元社 / 2013 年； p156 ～ 157

なおこの特集内で青磁ビブロスの牧歳子編集長（当時）は回答内における表現に

「やおい」を用いており「ボーイズラブ」は用いていない。

1994 年 10 月【目次不詳】

白夜書房よりラヴェンダー・ロマンスシリーズの一冊として

ジョン＝プレストン著『スウィート・ドリーム～アレックス・ケインシリーズ 1 ～』

訳出刊行。ノベルズ形態。ボーイズラブ読者向けに訳出刊行されたゲイ小説であるか？

1994 年 10 月 15 日

『b-Boy 17 特集 ショタコン』が青磁ビブロスより刊行される。

商業出版におけるショタアンソロジーの嚆矢とされるもの。

1994 年晩秋

後にビブロスの子会社と確認されたハイランド創業はこの頃と思われる。

（アーカイブ上に残るサイトデータに沿革が記載されていない為、刊行物の初版日より推定）

当初は二次創作アンソロジー専門版元として機能していたが、後にオリジナル作品の刊行も

するようになる。

1994 年 11 月

二見書房より CHARADE BOOKS 創刊。ノベルスもコミックも同一レーベルの下で刊行。

『ボーイズラブ』をレーベルのキャッチフレーズとして明確に持ちいた嚆矢であるか？

ここより発展したシャレード文庫は 1998 年 1 月創刊。

キャッチコピーは「爽やかボーイズラブに夢中!!」。

1994年11月9日

『COMIC イマージュ』VOL. 16  
(1994.11.9 初版 / 白夜書房 / ISBN: 4893674358 / すたんだっぷ; 編) の  
読者投稿頁・「イマージュポケット」にて、〈BOYS LOVE〉の略称として  
編集部から「BOVE」が提示される。

\*\* 『ぱふ』の特集の煽りの如く90年代前半頃は雑誌が創刊されては  
消えてゆくという現象が良くみられた。詳細は略すがB5版(大判)の  
雑誌も決して少なくはなかった。ただそれらに掲載された作品が単行本に  
採録された例はかなり少ないと思われる。\*\*

1995年3月【日次不詳】

ラポートよりファンロード3月号増刊・FRハンドブック95刊行。  
乱魔猫吉が編み出したやおいの伏せ字表現「やさい」が流行語大賞として  
掲載されているとの事。

【乱魔の著作『DISTORTION BLUE +』より】

「やさい」より派生した語としては「くだもの」【百合表現を指す】、  
「焼肉」【成人指定ノーマル: 表現ママ】があるとも言及されている。  
翌年刊行のFRハンドブック96でも「やさい」が流行語大賞を  
受賞したとも言及。

1995年5月5日

ショタジャンルオンリー同人誌即売会の代名詞ともなった“ショタケット”の  
第1回が東京にて開催される。

<http://homepage3.nifty.com/syotaket/>

以降2000年度を除き2012年まで番外も含め都合19回開催された。

<http://dic.pixiv.net/a/%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%82%BF%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>  
【運営サイドのカウントでは2012年現在「第16回」】

1995年6月20日

ふゅーじょんぷろだくとより阪神大震災救済を目的としたアンソロジー・

『TOGETHER — 同人作家70名による阪神大震災救済ベネフィットアンソロジー

We are the DOJIN-SHI WORLD!』が刊行。

内容参照 → <http://xqo.nobody.jp/menu/data/some.htm>

1995年11月1日

『JUNE』【所謂「大JUNE」】、通巻85号にてB5サイズでの刊行を終える。

【国立国会図書館書誌を参考に記述訂正】

86号から俗称 visual JUNE として(編集部自身は「大JUNE」を呼称)、  
232 × 300 (mm) にサイズ変更したが通巻87号にて休刊に至った模様。

(第87号【1996年4月発行】には次号予告掲載)

以後 JUNE ブランドの雑誌の混迷が少々有り。

興味深い記事として通巻84号【1995年9月刊行】304頁に

「JUNE 実写ビデオプラン大募集!」との記事が掲載されている。

後年刊行されたムック『恋 JUNE』付録DVDに収録されたオリジナル実写BL作品の  
構想はここに端を発するものか?

参照:

『恋 JUNE』VOL. 6 付録: 撮り下ろしゲイビデオドラマ40分「天使とオレ」天使編  
(2008年4月20日発行 / マガジン・マガジン)

1995年12月6日

オリジナルアンソロジー『プレス Special 特集ロリショタ』【ひかり出版】刊行。

ロリショタという言葉が商業出版で使用した嚆矢か? なお定義は明示されず。

1996年1月初頭頃

恐らく世界初となるやおい専用会員制サイト『同人倶楽部(矢追漫画ビル)』が開設される。

<http://www.yaoui.com/>

国内だけではなく国外にも門戸を開放する予定だった様子だが、98年7月頃には閉鎖に至って  
いたと思われる。【Internet Archiveからの確認】

現在このドメインからたどり着けるのは海外の会員制転載サイト。

1996年1月

太田出版より四谷シモーヌ著『悪の華 インコ真理教入会マニュアル』刊行される。

ナマモノ本の商業出版。往時の社会現象と相まって話題を呼ぶ。

1996年2月1日

『JA:KOW』VOL.1 (桜桃書房/1996.2.1初版 / ISBN:4756702864) 表紙キャッチコピー中に「GUYS LOVE」と記載。語の初出か？

1996年3月1日

フェニックス・エンタテインメント制作、ビーム・エンタテインメント販売によるSFロマンアニメーション『銀河帝国の滅亡・外伝 蒼き狼たちの伝説 VOL.1 7番目の男』が通販開始となる。【レンタル・店頭販売開始は同年12月18日】

ゲイ向け雑誌「薔薇族」(当時の版元は第二書房)の協力の下作成されたSFとしても骨太な作品。広告掲載媒体は「薔薇族」及び「manga 純一」(光彩書房)。性描写も含む完全版【X版。VHS及びレーザーディスク】と及び性描写をカットした短尺版【R版。VHSのみ】が存在した。

同作品は一時期諸事情により市場流通から姿を消していたが、2005年3月4日にデジタルワークスエンタテインメントのBLアニメレーベル・Slashより通販専用DVD作品として復刻された。

なおこの作品は海外でも『Legend of the Blue Wolves』等のタイトルで周知されており、深く愛好される向きも居る。

参照：

「Ask John: What's the Background of Legend of the Blue Wolves?」

<http://www.animation.net/blog/2005/03/31/ask-john-whats-the-background-of-legend-of-the-blue-wolves/>

※記事で紹介されている日本のファンサイトとはぶどううり・くすこ制作の情報ページ。

現在のURL <http://xqo.ooh.jp/bw/> 及び <http://xqo.ooh.jp/bw/com.htm>

\*\*\*

Slash <http://www.slash-jp.com/>

フェニックス・エンタテインメント <http://www.phoenix-ent.co.jp/>

1997年1月1日

『現代用語の基礎知識』1997年版では風俗・流行→ワードウォッチングと言う流れの中で項目担当者の稲垣吉彦(文教大学教授・当時)がショタコンについて解説。採用された論拠はふぁんろど提唱の「正太郎コンプレックス」。

また同じ誌上の若者用語→セックスと言う流れの中で堀内克明(明治大学教授・当時)もショタコンについて「少年にしか興味を示さない女性。また、そのような趣味。」と新たな定義を提示して言及した。(2008年版以降は「女性」の記述を「人」に改めた。)堀内による言及は2000年版まで続き、1999年版からは

「ショートアイズコンプレックス」なる新たな語源説も提示された。

なお、ショートアイズコンプレックスについて『現代用語の基礎知識』誌上で言及された事はない。

1997年1月5日

桜桃書房より『女の子向け 同人誌サークルガイドブック』刊行。

同社提唱のYA01専用マーク“PINK DeLIGHT”の下刊行される。

東京イベント限定と言う感覚ではなく、全国イベント向けを目指したものか？

1997年2月9日

オリジナル JUNE 系同人誌即売会 “J. GARDEN” 1st が開催される。

於・池袋サンシャインシティ <http://www.jgarden.jp/>

June 出版部と運営である J. GARDEN 事務局に直接の関係は無し。

2013年9月現在開催より34回目を数えるとの事。【第36回まで開催予定提示】

1997年7月には JUNE コミックスとしてアンソロジーが二冊発行された。

【『やらしてくんない？ J★GARDENアンソロジー 1』

『放課後まで待てない J★GARDENアンソロジー 2』】

開催日情報は松成久美子女史のサイト “くみくみアートキッチン” ・

2013年以前のお仕事情報を参照した。 <http://www.kumikosan.com/>

1997年7月発行の別冊 JUNE 7月号【マガジン・マガジン刊】には

同年10月5日開催の第三回の広告が掲載されている。

1997年3月

版元としては中堅所に位置したヒカリコーポレーション(旧社名:ひかり出版)、ほぼ予告無しに倒産。同社から刊行された作品群の内再版されたものは極めて少ない。

1997年4月

青磁ビブロス、ビブロスに社名変更。

1997年8月1日

マガジン・マガジンより SUN-MAGAZINE MOOK として JUNE 編集部・編の『[新世紀エヴァンゲリオン JUNE 読本] 残酷な天使のように』刊行される。一方的な解釈ではなくあくまで原作起点の解釈を中心に。

1997年9月15日

『b-Boy Zips』（ビブロス・刊）4にて読者投稿の一節に「BOY'S LOVE」と記される。（271ページ）  
ビブロスの刊行物に「ボーイズラブ」と掲載された最初であると思われる。

1997年9月26日

岡田斗司夫編著『東大オタク学講座』（講談社）刊行。紙面にてやおいへの言及あり。  
[第十講 終わりなき「やおい」の野望] 客員講師：青木光恵  
<http://www.netcity.or.jp/OTAKU/okada/library/books/otakusemi/No10.html>  
オタク文化論講座の一コマを採録。二次創作寄りの言及。

1997年10月20日

唐沢俊一・著『トンデモ美少年の世界』（光文社文庫）刊行。  
作品を巡るエッセイではなく、ナマモノ寄りの事象を巡るエッセイ。

1997年12月24日

竹書房より巨大ロボット登場のアニメ 35年分のデータを網羅した資料本・『スーパーロボット画報』刊行される。  
200頁掲載のコラム記事にて1996年発表OVA『蒼き狼たちの伝説 X』について言及あり。

1998年1月1日

小泉蜜が管理するやおい・ボーイズラブ・JUNE 考察サイト『蜜の厨房』開設される。  
<http://hw001.spaaqs.ne.jp/kitchenmits/mits/>  
【現行 URL。2002年末に諸般事情で現行 URL に移転】  
愛着と程好い距離感の同居する考察中心サイト。

1998年7月30日

岡田斗司夫：編『国際おたく大学』（光文社）刊行  
渡辺由美子・筆「ショタコンの研究」を所収。  
同嗜好研究文献としては恐らく初めてのもの。

1998年12月5日

『コミック JUNE』（マガジンマガジン・刊）VOL.4で現行形式となる。  
キャッチコピーは“21世紀を愛で切り裂く原色のボーイズコミック誌見参!!”。

1999年3月31日

タカハシマコ『野いちご心中』【芳文社】刊行。  
描き下ろし後書きにおいてタカハシはこのジャンルをやおいではなくボーイズラブと呼ぶ様になった事について大変驚いた旨を記している。  
なおタカハシのこの発言は原稿依頼があった当時の回想に基づいているので、『初めてのボーイズラブまんが』【引用ママ】と本人が称する収録作「ポケットビスケット」初出時【桜桃書房『GUST』1997年1月号】から鑑み、上記の出来事の時期を遅くとも1996年年末の事と推定すべきかと思われる。

1999年6月5日

「活字倶楽部 13 '99 春号」（雑草社/1999.6.5 発行/雑誌 14079-06）掲載のひらのあゆ作四コマ漫画（111頁掲載）にて用語『メンズラブ』初出か？。  
※単行本『迷宮書架』（雑草社/2003.4.23 初版/ISBN:4-921040-04-4）111頁に再録。

1999年7月26日

講談社より栗本薫・著『タナトス・ゲーム 伊集院大介の世紀末』刊行。  
推理小説でありなおかつヤオイ愛好家【作中でヤオラーと称す】の心理研究書。  
1988年10月・筑摩書房より刊行した中島梓名義の著作『タナトスの子供たち—過剰適応の生態学』と対をなす一書。  
「ヤオラー（やおらー）」初出の書とみられる。  
栗本薫＝中島は「腐女子」と言う言葉を把握していなかった？

1999 年 8 月 11 日

ネット上で「腐女子」の使用目撃例が報告される。

【日記・Diary: 1999.08 まで (赤穂 昭太郎 / Shotaro Akaho)

[http://www.geocities.jp/shotaro\\_akaho/diaryj-199908.html](http://www.geocities.jp/shotaro_akaho/diaryj-199908.html)】

腐女子関係の最古のネット記録と思われる。

同時にこれは出典を明記できる現存最古の記録であるとも思われる。

2000 年 3 月頃

電子書籍サイト・パピレスがホーイズラブ小説の取り扱いを開始した模様。

<http://www.papy.co.jp/>

【Web Archive : 2000 年 3 月 3 日及び 3 月 4 日の記録より推定】

特集見出しとして以下の一文が躍った。

『女の子たちに大人気の“やおい”小説って何？ちょっと危ない美少年の世界！』

2000 年【月次不詳】

BL 作品レビューサイト“ホモミシュラン”開設か？

<http://www.ja-na.com/hm/>

【年次同定はWebArchive上の最古のデータ・2004 年 2 月 19 日のものよりたどれた

「2000 年ホモミシュラン・オブ・ザ・イヤー集計結果発表！」

(<http://www.ja-na.com/HM/2000rank.html>) に拠った】

個人開設サイトでありながらクロスレビュー形式をとり可能な限りの

客観レビューを目指した。しかし参加者個々の筆致のみを模倣する

個人が居たであろう事も否定は出来ない。

2000 年 6 月

角川ルビー文庫より『美少年の恋』（水田菜穂：著、ヨン・ファン：原案 /

ISBN:4044412014）刊行。

同名映画のノベライズ。翌月には木戸サクラ・画で漫画化もされる（ISBN:4048532146）。

海外のボーイズラブ表現輸入の先駆けであるか？

2000 年 8 月 7 日

画像作品展示ギャラリーを主体とした SNS サイト・devianArt が開設される。

<http://www.deviantart.com/>

性的描写展示に関しては 2014 年現在もかなり制限有。

2000 年 8 月 10 日

株式会社ソフパルの女性向けゲームブランド・プラチナレーベルより

『好きなものは好きだからしょうがない!!— FIRST LIMIT—』が発売される。

初めての商業ボーイズラブゲーム。

[http://www.softpal.co.jp/platinum\\_me/project/](http://www.softpal.co.jp/platinum_me/project/)

のちに角川書店及びマリン・エンタテインメントも合流してマルチメディア展開を見せた。

2000 年 10 月 4 日

WOWWOW にて村上真紀原作『グラビテーション』が連続アニメ化され放映される。

全 13 話。のちに TOKYO MX にて配信との事。

地上波配信ではないがボーイズラブ作品の初 TV アニメーション化と捉えるべきか。

2001 年 1 月 17 日

2ちゃんねる 801 板「■ やおい用語の基礎知識 ■」94 番レスにて記述された

「ボーイズラブ」の解説文中にてビブロスがこの語を提示したと言及された。

<http://www2.bbispink.com/801/kako/978/978668977.html>

<http://web.archive.org/web/20020111215715/http://www.bbispink.com/801/kako/978/978668977.html>

wikipedia の記述他その後のネット上の認識に少なからず影響を与えたものと思われる。

2001 年 2 月頃

『JUNE』公式サイト「JUNE-NET (ジュネット)」開設。

<http://www.june-net.com/>

往時は交流サイトとしての面とアーカイブサイトとしての面を持ち合わせていた。

※全作品を網羅する試みとして「ジュネ作品リスト 1978-2000」なる検索コーナーが存在した。

2001 年 3 月 10 日

キルタイムコミュニケーションより鈴木純平・著『煩惱ゲームの世界』刊行。

BL ゲーム紹介書、ではなく、BL としても読み取れる文脈を含むゲームを

紹介する本として成立。

2001 年 4 月【日次不詳】

同人向けネチケットサイトの代名詞『毒吐きネットマナー』が成立したのがこの頃と思われる。【Web archive による確認】2006 年 8 月半ば頃まで存続したか？

【本家】 <http://www.botan.sakura.ne.jp/~kannmaru/manner/> 【現存せず】

【ミラーサイト】 <http://www5f.biglobe.ne.jp/~pony55/ryuka211/doku/>  
おそらく創設者の意図と反した形で支持され、その内容を参考にした多くの二次創作スタイルネットマナーサイトや改変サイトを生み出したと思われる。

後年【2005 年 9 月】他者の手によりサイト原文に穏当な考察を加えた

『毒吐きネットマナー PLUS』が成立した。

<http://lctree.fc2web.com/poison/>

2001 年 6 月頃

2ちゃんねる上で漫画家・木南達哉【現・安南友香子】の作品に対し既存作品の盗用ではないかという声上がり、検証行動が開始され、記録が残される。

木南達哉問題 <http://blue.ribbon.to/~risotto/>

現在につながる検証サイト群のはしりであるか。

2001 年 7 月下旬

2ちゃんねる経由で CLAMP 作品の二次創作を行っていたある同人サークルの創作物に対し模写ではないかという声上がり、検証行動が開始される。

検証サイト <http://www.geocities.co.jp/WallStreet-Stock/5228/>

なお、この案件は同人作家出身であった CLAMP の（CLAMP 作品）二次創作同人に対する姿勢にも影響を与え、CLAMP 公式による同人活動ガイドラインが改訂されると言う動きがあった。

CLAMP 公式 <http://clamp-net.com/>

※なお、現在の公式サイト中には関連文言は散見されない。WEB Archive 経由である程度の遡上は可能。

2001 年 9 月 1 日

米・カリフォルニア州にて総合イベント“YAOI-CON”開催される。

以降年一回開催され、日本からも開催毎にゲストを招く様になる。

<http://yaoicon.com/>

《日本からの招聘ゲスト一覧：主に作家を記述》

2001 氷栗優・黒川あづさ・新宿西口・米沢嘉博

2002 新田祐克

2003 櫻井しゅしゅしゅ

2004 やまねあやの

2005 こだか和麻・氷栗優

2006 わたなべあじあ・川唯東子

2007 沖麻実也・川原つばさ・高永ひなこ

2008 大和名瀬・かいやたつみ

【新田祐克が招聘される予定であったが諸事情あり大和名瀬と交代】

2009 南かずか（みなみ遥）・宮本佳野・立野真琴

【ほぼ直前にみなみ遥が病欠となる】

2010 やまねあやの・置鮎龍太郎・木内秀信・高永ひなこ・宮本佳野

2011 稻荷家房之介

2012 小笠原宇紀

2014 高久尚子

2015 立野真琴・旭まあさ

2016 高永ひなこ

なお、同イベントはサークル組織とみられる美青年屋 <http://www.biseinen-ya.com/> により運営されていたが 2011 年以降、アメリカの出版社 Digital Manga Publishing の手による運営となった。

参照：<http://en.wikipedia.org/wiki/Yaoi-Con>

2001 年 10 月 12 日

独・ラインラント＝プファルツ州 Trier（トリーア）にて

総合イベント“BishounenCon 2001”開催される。

<http://www.bishounencon.de/>

Webarchive 上で記録を訪ねる事が可能。

主催は YaoiGermany <http://www.yaoi.de/> サークル組織と思われる。

2002 年 9 月及び 2003 年 9 月には同じ場所で“BishounenCon 2002”

“BishounenCon 2003”がそれぞれ開催された。

以降開催の痕跡は無し。

YaoiGermany は 2012 年 3 月 24 日に活動休止。サイトも消失。

2001 年 11 月 25 日

『 b.p.m.—Boys Paradise Magazine—』 #01 (工学社・刊) 刊行  
BL ゲーム紹介とインターネット活用術と同人活動指南、そして  
801 とゲイの橋渡しを多様な解説で目論むと言う贅沢な内容の一冊。  
但しこの一冊のみで後続はいまだ無い様子。

2002 年【月次不詳】

海外ゲイビデオ作品輸入メーカー・ S.I.G. 創業。

<http://www.sig-inc.co.jp/>

(現在この URL では全くの別会社が営業活動を行っている。)

自社流通ビデオ作品に対し“ボーイズラブビデオ”と呼称。

往時の状況は Web Archive で確認する事が出来る。

※傍証メールマガジン記事：

【案内】 S.I.G.・ボーイズ・ラブ・コレクション DVD 2 作品をリリース

<http://www.milkjapan.com/2005km02.html>

同社は 2005 年【月次不詳】に SIG-X と改称。

<http://sigx.cart.fc2.com/>

なお、同社代表の星由美子は2004年4月から約一年間、ハンドルネーム “avalon” を  
用い、日本版 all about に

「美少年・美青年の花園☆ボーイズラブへ、ようこそ! avalon の Boys Love in the City」  
なる自社取扱い作品宣伝も含めた海外実写作品紹介連載コラムを掲載していた。

【現在はデータの痕跡も一切なし】

2002 年 1 月【日次不詳】

コルトにより愛好者を対象に据えた考察サイト『やおらヤオラー研究』が開設される。

<http://801.easter.ne.jp/> → <http://801.ifdef.jp/>

諸問題に対し冷静に記した内容。

コルトが愛好者の呼称に「腐女子」ではなく「やおらー」を採用したのは興味深い所。

2002 年 1 月 7 日

『 magazine BE×BOY 』（ビブロス刊）1 月号発行。

キャッチコピーは「夢見る BOYS LOVE マガジン★」

以降表紙キャッチコピーに“ BOYS LOVE ”を盛り込む。

2002 年 1 月 8 日

太田出版よりオタク学叢書第 7 巻として『アニパロとヤオイ』【西村マリ著】刊行。

サンプルとして引用された同人誌の多くは鎧伝サムライトルーパーのもの。

2002 年 4 月 7 日

『 magazine BE×BOY 』（ビブロス刊）4 月号発行。

2001 年開催 YA01-CON 第 1 回の日本からの招聘ゲスト・氷栗優が

「 YOU の突撃! 海外レポート The YA01CON REPORT!! (ザ・ヤオイコン・レポート)」

と題し、4 ページにわたるレポート漫画を執筆掲載。

なお、このレポートは（2015 年 2 月段階では）単行本に再録されていないと思われる。

2002 年 6 月 8 日

ミクが考察兼交流サイト『男の作る「やおい」のページ』を開設。

<http://homepage1.nifty.com/lost-universe/yaoui/> 【現在データ消失】

開設当時彼は男子やおらーを肩書にしていたが、後に受けたサイゾーでの  
インタビュー【2005年】の時点では腐男子を肩書にしていた。

同サイトは 2009 年 5 月 30 日をもって無期限休止。後データ消失。

2002 年 7 月 5 日

二次創作アンソロジー『魔法学園初等科』、コライユ出版から刊行される。

ファンタジー・ガイドブックと副題を付け、二次創作アンソロジーとしては  
恐らく初めてであろう前文が 5 頁に渡り記されていた。

しかしながら装丁で該当ジャンルを雄弁に語っていた。

<http://www.suruga-ya.jp/database/0151.html>

奥付にも原著に考慮したと思われる文言有り。

2002 年 7 月 10 日

キルタイムコミュニケーションより BL ゲーム紹介ムック『 GAME DARLING 』創刊。

2003 年 5 月に第 2 号が刊行されるもそこで途絶えた模様。

定期刊行化の意気込みがあった様ではあるが。

各号とも紙面の三分の一を費やして先年同社より刊行された『煩惱ゲームの世界』を  
追補掲載していた。

2002 年 8 月

「オトコのヤオイ好きの憂鬱」

<http://www2.bbispink.com/801/kako/1029/10299/1029955810.html>

4 番レス（2002 年 8 月 22 日記述）にて「腐女子」との洒落合わせと  
言う形で「腐兄」と言う 男性やおい愛好者の自称が提唱される。

また 69 番レス（2002 年 8 月 29 日記述）にて「腐男子」が一般的に  
用いられていると発言されたが 論拠等は示されず。

なお、この時点で腐男子にも腐兄にも百合好きと言う属性は付記されていない。

※以降経緯資料→『腐兄腐男子事象年表』

[http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/fudanshi\\_note-1010021.pdf](http://bllogia.files.wordpress.com/2011/05/fudanshi_note-1010021.pdf)

2002 年 9 月 11 日

2 ちゃんねる 801 板（BBSPINK）に当時ネット上で消息不明扱いされていた  
漫画家・奥様うどんについて語るスレッドが建てられた。

「+++奥様うどん+++」 <http://mimizun.com/log/2ch/801/1031677294/> 【現存ログ】

【往時URL <http://www2.bbispink.com/test/read.cgi/801/1031677294/>】

スレッド開始の時点で彼女が商業作品として遺したと確認されていたのは

『b-BOY 9 — HARD PLAY 特集号—』【ビブロス / 1993 年 6 月 8 日初版】

掲載「苦悩のプリンス」一作のみ。

その作風のある種の潔さに魅入られた往時の読者達が集い、更に作品を愛でたいと  
未発見の作品発掘を進めつつ新しいファン層を開拓していた暖かみのある

スレッド進行の中、340番レス [2002 年 10 月 16 日付] に於いて御当人が降臨。

スレッドはそのまま「奥様うどんファンの集い会場」と化し進行を続けた。

奥様うどん当人はかつての活動以降同人・商業活動から退いていたが、

スレッド内の声援に呼応して活動再開を決意し、投稿作品を創り始めていた。

そして光彩書房刊行オリジナルアンソロジー『筋肉男 3』【2002 年 12 月 10 日初版】

編集後記に於いて編集部から奥様うどんに連絡を乞う一文が掲載され（スレッドにも

その旨が読者より報告され）、彼女が筋肉男編集部と連携をとった結果、

758番レス [2003 年 1 月 15 日付] にて商業出版復帰への報告が為され、

以降彼女は現在も作品と楽しく対峙している模様。

彼女の商業出版復帰作品は『筋肉男 4』【光彩書房 / 2003 年 3 月 10 日初版】にて  
確認可能。

2002 年 10 月 1 日

『小説 JUNE』（マガジン・マガジン刊）2002 年 10 月号【通巻 144 号】

特集《男と男の抒情詩！『さぶ』大辞典》掲載インタビュー（142 頁～）に於いて

『comicJUN』創刊編集長・『さぶ』創刊編集長を歴任した櫻木徹郎

（当時『小説 JUNE』編集長。現マガジン・マガジン専務取締役）が

「『さぶ』は元々（〔作家〕ジャン・ジュネの世界観を考えて）『ジュネ』と言う  
誌名になる筈だった」（要旨）と発言。

2002 年 10 月 1 日

イーグルパブリッシングより『B-GAME CAPTURE 01』刊行。

全ページカラーの BL ゲーム紹介書。02 刊行の音沙汰は現在までない模様。

2003 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2003 年版』マンガ文化用語解説担当が鶴岡法斎に交代。

独立項目であった「やおい」消失。

2003 年 1 月 10 日

茜新社よりオリジナルショタアンソロジー『好色少年のススメ』創刊。

成人向けマークを付され区分されたショタアンソロジーの嚆矢。

2003 年 6 月 7 日

B6 版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?!恋!』13（光彩書房・刊）読者コーナーにて

編集部から読者への呼びかけとして「腐女子」が用いられる。（168 ページ）

現在明確に確認できる「腐女子」活字化の嚆矢か？

2003 年 7 月 3 日

東京・弥生美術館に於いて『美少年コレクション展～昭和のイラストレーションにみる～』  
開催される。同年 9 月 28 日まで。

→ <http://www.yayoi-yumeji-museum.jp/exhibition/yayoi/0307.html>

描き留められた『美少年』から時代を垣間見る試み。

なおこれに先立ちガイドブック的な一冊として『昭和美少年手帖』が河出書房新社より  
刊行された。編者は弥生美術館学芸員（当時）・中村圭子。



2003 年 7 月 11 日 ~

Wikipedia「山川純一」項には恐らく記述されないであろう

『ヤマジュンパーフェクト』【2003 年 11 月 1 日初版・ブッキング刊】刊行についての裏話WEB記事が断続的に開陳される。参考資料としてリンクを提示。

→ じーらぼ! 言戯道場 (G-LABO Gengi-DOJO)

管理人: みやもと春九堂 (しゅんきゅうどう)

ヤマジュンという伝説<1> <http://g-labo.to/log/2003/200307110046.html>

ヤマジュンという伝説<2> <http://g-labo.to/log/2003/200307112308.html>

ヤマジュンという伝説<3> <http://g-labo.to/log/2003/200307140119.html>

ヤマジュンという伝説<4> <http://g-labo.to/log/2003/200307150123.html>

2003 年 9 月 22 日

雑草社より『別冊活字倶楽部 BL 小説 (ボーイズラブノベル) パーフェクトガイド』刊行。雑誌扱い。BL をまだボーイズラブと読み下している。

2003 年 12 月 30 日

BL 漫画家・櫻井しゅしゅしゅが自らの同人誌サークル・NO RESET CLUB の刊行物として『Yaoicon へ行こう!』を刊行。2003年に日本からのゲストとして招聘された Yaoi-Con 2003 の実録レポート。後述の商業誌掲載レポートとは異なる内容。

2004 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2004 年版』マンガ文化用語解説担当が秋田孝宏に交代。2003 年版で消えた独立項目「やおい」、復活せず。

2004 年 【月次日時不詳】

アメリカにて専門出版社 “YAOI PRESS” 発足。

WEB サイト稼働及び実質的な刊行開始は 2005 年に入ってから。

【Web Archive 及び Amazon の検索に拠った】

<http://yaoipress.com/>

2004 年 【月次日時不詳】

ドイツにて専門出版社 “Fireangels Verlag” 発足。

WEB サイト稼働及び実質的な刊行開始は 2005 年に入ってから。

【Web Archive 及びサイト標記に拠った】

<http://www.fireangels.net>

2004 年 2 月 20 日

三修社より対大学受験用と銘打った英単語例文集『恋する英単語』刊行。

BL 漫画家・島崎刻也が挿画を担当。

編集協力はエルスタッフ。

【↑ 1993 年創設。光彩書房の BL 及び TL 漫画編集を往時担当。

2007年、株式会社ヴェルベット・ポウとなる。→ <http://www.velvet-paw.co.jp/>】

三修社紹介ページ → [http://www.sanshusha.co.jp/topics/topics\\_koikan.html](http://www.sanshusha.co.jp/topics/topics_koikan.html)

内容の展開は島崎の作品『恋はいつも嵐のように』に拠る所が大きい。

2004 年 4 月

『小説 JUNE』、『小説 JUNE DX』と誌名を変え、通巻 153 号で休刊。

2004 年 5 月 1 日

『ぱふ』(雑草社・刊) 2004 年 5 月号巻末掲載「ぶらり途中下車の旅」池袋(東口方面)編文中に於いて「乙女ロード」の名称が初めて用いられる。

2004 年 初夏頃【月次不詳】

山下書店新宿本店(当時)に在籍していた永嶋理恵子(ながしまりえこ)が販売戦略として BL 作品の棚にひぐちアサ作「おおきく振りかぶって」を配置し、「耽美」「BL」「萌え」の語をちりばめ、二次創作を煽り立てる様なPOPも付していた、との事。8 月初頭頃までその配置は続いた模様。

参考資料:

WEB 本の雑誌・連載堂書店・「錦町のお嬢」※元「新宿のお嬢」ながしまりえこ

第 16 回 <http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/02/162000.html>

第 20 回 「~ごめんなさい。心からの謝罪をみえない貴方に~」

<http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/23/122000.html>

2004 年 7 月 1 日

はてなダイアリーにて flage (ふらーじゅ) がブログ「腐男子の書斎から」を展開開始。

(<http://d.hatena.ne.jp/flage/>)

【参照記事：腐女子の注目を集める腐男子のブログ

<http://d.hatena.ne.jp/izumino/20040716/p3>】

腐男子をタイトルに冠したブログの嚆矢と言えよう。

先行し評判になっていた三谷ちず管理の腐女子ブログ・

「腐女子の行く道、萌える道」で定着しつつあった挨拶・

『〜〜腐女子です』に倣い、『〜〜腐男子です』と言う

挨拶を用いたりしていた。

【「腐女子の行く道、萌える道」 <http://fujoshi.moe-nifty.com/chizu/>

2003.12.14 ~ 2004.8.12 稼働】

後にブログは 2004 年 8 月 6 日以降 blogzine (<http://fudansi.blogzine.jp/>)

で展開され、更にアメーバブログ (<http://ameblo.jp/fudanshi/>) に

移転して展開された。Blogzine からアメーバブログへの移転日に

ついては記録漏れ。

記事記録から読み取れる限りではアメーバブログに 2005 年 4 月段階で

移転したらしい。

WEB アーカイブ及びそのリンク追跡によって各地点の記録を

ある程度まで追跡する事が可能になっている。

後述のサイズ取材時 (2005 年 6 月号掲載) には blogzine の

アドレスが記述されている。

「腐男子の書斎から」は 2007 年 12 月末日、完全更新停止。

【投稿記事は 11 月 26 日付のものが最終。12 月末日の記事は

予告があったが投稿されなかった模様。】

現在 WEB 上から元データは消失している。

2004 年 8 月 11 日

B6 版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?恋!』 21 (光彩書房・刊) 読者コーナーにて

編集部から読者への呼びかけとして「腐男子」も「腐女子」とともに用いられる。

恐らく「腐男子」が活字になった嚆矢か。

2004 年 8 月 25 日

花丸編集部：編『ボーイズラブ小説の書き方』 (白泉社) 刊行。

小説の教則本ではなく、投稿 How To 本の色合いが濃い一冊。

2004 年 9 月頃【日時不詳】

渡辺直美監督による映画「青春 801 あり!」が製作される。

[http://www.tokyo-igff.org/2005/w\\_801.html](http://www.tokyo-igff.org/2005/w_801.html)

その後の公開経緯を見る限り、劇場公開を意識したものでは無いと思われる。

2004 年 10 月

マガジン・マガジンよりコミック誌『it's BOY's LOVE』創刊される。

サン出版~マガジン・マガジンと言う流れの中で初めてボーイズラブを

表に打ち出したものであるかと。

同誌は 2005 年 6 月刊行の VOL.5 をもって『BOY's LOVE』と改題。

現在に至る。

2004 年 10 月頃【詳細日次不詳】

ネット上の用語辞典 “《ぱら☆あみ》的同人用語の基礎知識” に『腐女子』の

詳細解説が掲載される。文意は現行のものとは大差なし。

<http://web.archive.org/web/20041015154003fw/http://www.paradisearmy.com/PASOK2R.HTM>

【WebArchive による遡上。独立解説ページ自体のURLは現行と違うので注意】

<http://www.paradisearmy.com/doujin/>

【参照】現行独立ページ <http://www.paradisearmy.com/doujin/pasok2r.htm>

以降散見される腐女子語源に関する文言はこの情報の伝聞によるものか?

独立記事の末尾には初出時から「同人用語の基礎知識/ うっ!/ 2000 年 9 月 7 日」の

記載がある為、この日付で情報が採録されたものと思われる。

\*\*\*

なお、説中には提唱された年代について 2016 年現在も明確な傍証は発掘されていない。

文責：ぶどううり・くすこの許に寄せられた証言では 90 年代後半時点では

既にパソコン通信の場で用いられた模様であるとの事。

2004 年 11 月 3 日

ソフトマジック / スイート P ラボより『腐女子的らぶたん』

【月下さがの・しみずぺと子、イラスト：三輪太郎】刊行。

腐女子をタイトルに掲げた本の嚆矢と思われる。

往時流行したオタク向け単語帳の流れに乗ったタイトルとみられるが、

実質は単語帳の枠を超えた短編集も含む内容。

2006 年 3 月に続刊として『らぶたん～腐女子のための基礎知識～』がサンデー社より刊行。こちらはテーマ別短編がメインとなっている。

2005 年【月次日時不詳】

ドイツにて “ YaYuCo — yaoi and yuri convention — ” 初回が開催されたと思われる。

<http://www.yayuco.de/>

第 2 回は 2007 年開催。以降断続的に開催しているとみられる。

2010 年代になってからは年一回開催の様様。

2005 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2005 年版』において「マンガと文化の基礎語」に

「ボーイズラブ」が採用される。ただし起源を少女漫画に求める文脈。

解説担当は秋田孝宏。

2005 年 1 月

PC ゲーム『好きなものは好きだからしょうがない !!』がアニメ化され

地上波放映される。ボーイズラブ作品の初地上波 TV アニメ化であるか。

2005 年 1 月 25 日

Wikipedia に「腐男子」項目が登場。「腐女子の対義語」として始まった記述は

現在様々な解釈が入り混じったものになっている。

因みに Wikipedia 上で腐男子=百合作品を好む男性と記述が現れたのは

2006 年 8 月 27 日が最初。

2005 年 2 月 18 日

米国・DigitalMangaPublishingのボーイズラブ作品専用サイト『Yaoi-manga.com』が開設される。

ボーイズラブ作品専用レーベル『Yaoi-manga』も創設される。

<http://yaoi-manga.com/>

同サイトは 2006 年 7 月に『Junemanga.com』へと名を変え今日に至る。

レーベル名も『JuneManga』となる。

<http://junemanga.com/>

2005 年 2 月 18 日

米国にて YAOI 専用ギャラリーサイト『y!Gallery』が創設される。

<http://www.y-gallery.net/>

「the art gallery for male/yaoi/boy's love art」と謳う。

無料で利用できる絵描きの交流サイトとして今日まで継続。

(現在では小説発表の場としても利用されている。)

なお、その前身は 2004 年に開設された『ワイ！ホスティング』 <http://www.y-hosting.net/>。

YAOI 作品発表者用の無料ホームページサービスであった。

2005 年 3 月 15 日

専修大学出版局より永久保陽子・著『やおい小説論 女性のためのエロス表現』刊行。

やおい小説（BL 小説）をデータ面から分析した論文を刊行したもの。

2005 年 4 月 26 日

角川出版刊行『comic 新現実』 vol.4 に裏特集「『やおい』の起源」掲載される。

431 頁～ 509 頁。特集中の年表は 1994 年の時点で中断されている。

2005 年 5 月 25 日

モエールパブリッシングより

『BoysLove[BL] サークルパーフェクトガイド』 2005 SUMMER 刊行される。

用途としては完全な同人サークルガイドブック。左綴じで刊行される。

同年冬には冬コミ対応版として『2006 WINTER』が刊行された。

こちらは右綴じで作品再録有。

2005 年 6 月 1 日

『サイゾー』 6 月号 インフォバーン刊  
特集「ザ・要注意人物」の中の一項として「腐男子」が取り上げられる。  
76~77 ページ（見開き）  
添えられたイラストを含めやや恣意的な解釈が見受けられる記事。

\*\*\*\*\*

[耽美な世界に萌え萌え(?)な男たち]  
ノンケなのにやおいに胸キュン 「腐男子」の実像に迫る!

\*\*\*\*\*

平瀬菜穂子：文 マー関口：イラスト  
colt（「やおらヤオラー研究」管理人） / 藤本由香里（漫画研究家）

☆☆☆

腐男子鼎談

ミク（『男が作る「やおい」のページ』管理人）

flage（『腐男子の書斎から』管理人）

光希（やおい創作サイト管理人。サイト名は伏せられている）

2005 年 7 月 29 日

読売新聞夕刊（一部地域除く）掲載連載記事・『カラン卿の短歌魔宮』（選者：黒瀬珂瀾）、  
第十九夜のお題を「ボーイズラブ」として展開。7 月 19 日締め切りで短歌が公募された。  
記録 → <http://www.kurosekaran.com/erin/backnumber/200507.html>

2005 年 10 月 1 日

別冊ぱふ『BLM ビーエルマガジン』（雑草社・刊）創刊  
ボーイズラブ作品刊行専門情報誌の先駆では無いと思われる。  
またこの本のタイトルは公的に BL をそのままビーエルと読み下した  
先駆であると思われる。惜しくも 2 号にて終了。

2005 年 11 月 12 日

日刊ゲンダイ WEB 版と位置付けられるゲンダイネット【当時】より  
『池袋の新名所 乙女ロードって何だ』と題された記事が提携各ポータルサイトに配信された。  
記事発信元及び掲載先によるアーカイヴは存在しない模様。往時報道のサンプルとして記録。  
参考（全文転載先）：<http://news19.2ch.net/test/read.cgi/newsplus/1132049109/>  
同上：<http://www.asyura2.com/0510/bd42/msg/117.html>

2005 年 12 月 1 日

『Newtype』（角川書店・刊）12 月号掲載記事  
「2005 年もの申す」掲載解説（106 ページ）にて  
乙女ロードを「通称・腐女子ストリート」として紹介。

2005 年 12 月 1 日

日経 BP 社より『ライトノベル完全読本』 Vol.3 が刊行され、  
特集として「BL [ボーイズラブ] 大分析」が組まれる。【145 頁 ~ 208 頁】  
『蜜の厨房』管理人・小泉蜜もコラム執筆と特集内年表（及び年表内用語集）作成で  
参加。【サイト内 2005 年 11 月 20 日付更新記録で言及有】  
この年表は 1970 年から 2005 年までの事象を明瞭に書き記した力作。

2005 年 12 月初頭【詳細日次不詳】

腐女子専用 SNS としては恐らく嚆矢であろうと思われる  
『桃砂塔 SNS（仮）』開設される。 → <http://momozatou.sumomo.ne.jp/>

2005 年 12 月【日次不詳】

BL喫茶 [男装ギャルソン喫茶] の元祖と思われる “B:Lily-rose” 開店。  
<http://lilyrose.buftsiz.jp/> → <http://www.b-lilyrose.com/>  
<http://id7.fm-p.jp/35/BLR/>  
男性客は完全に入店禁止の体制を敷く。  
2009 年 12 月 24 日をもって閉店。  
その後 2012 年 9 月 25 日、一日限定カフェ “B\*Little Roost” と  
して復活。

2005 年 12 月 26 日

太田出版より『やっぱりボーイズラブが好き~完全 BL コミックガイド~』刊行。  
ISBN 付の商業 BL 漫画専用ガイドブックとしては恐らく初めて。

2005 年 12 月 27 日

NHK 教育テレビ『知るを楽しむ 私のこだわり人物伝～江戸川乱歩・幻影城へようこそ～』

第 4 回「みんな遊ぼう～怪人二十面相ハ私デス～」中にて語り手の大槻ケンヂが

『怪人二十面相はショタコンである』と言う趣旨の解説をする。

先だって発行された番組用テキストに於いてもその解説は一字一句洩らさず記載されている。

番組テキスト

『NHK 知るを楽しむ 私のこだわり人物伝』 2005. 12. 1 発行

ISBN4-14-189136-3

2006 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2006 年版』最新カタカナ・略語辞典において「ボーイズラブ」登場。

同辞典執筆担当は堀内克明と大森良子であるが、解説文の内容は 2005 年版にて秋田孝宏が

執筆した「マンガと文化の基礎語」/「ボーイズラブ」項の内容を要約したもの。

2016 年版刊行現在もこの内容は踏襲されている。

2006 年 1 月 4 日

愛好者専用 SNS 『やおい SocialNet』開設される。→ <http://bxb.jp/>

2ちゃんねる 801 板を起点とする SNS。18 禁設定。

【ソーシャルネット】 2ch SNS 【mixi】 <http://mimizun.com/log/2ch/801/1129460765/> の

820 番が初出。後に独立スレッド”【801】やおいそーしゃるねっと【SNS】”も建つ。

WEBArchive からの推測では 2007 年 12 月 10 日、閉鎖に至ったと思われる。

2006 年 2 月 1 日

JTB パブリッシングより『もえるるぶ 東京案内 2006 年版』刊行。

56頁から65頁にかけて腐女子・乙女特化池袋案内が特集される。

この項のみキャラクターデザインを高河ゆんが担当。

2006 年 3 月 16 日

『オタク女子研究 腐女子思想大系』（杉浦由美子・著/原書房・刊）刊行。

タイトルと本文からは評論であると判断されるが編集者からはエッセイであると

後日言及あり。該当ジャンルで腐女子と掲げた単行本の嚆矢であるか。

【※腐女子をタイトルに掲げた本の嚆矢に非ず、と謹んで訂正】

2006 年 3 月 24 日

執事をコンセプトとした喫茶 “Swallowtail” が池袋に開店。

<http://butlers-cafe.jp/> <http://blog.livedoor.jp/ks2153/>

以降林立する執事喫茶の走りとなる。現在も継続営業。

ボーイズラブとは直接関係しないが、参考事例として記述。

2006 年 4 月

ビブロス倒産。系列会社のハイランドも倒産する。

2006 年 4 月 17 日

男装喫茶 “80+1 ( Eighty Plus One ) ”、東池袋に開店。

<http://80plus1.net/> <http://com.nicovideo.jp/community/co1138737>

ボーイズラブがコンセプトであるとは明言せず。

一部時間帯を除き男子禁制の運営方針。

2015 年 3 月 31 日、営業終了

2006 年 4 月 18 日

WEB 上で活動していた漫画家・小島アジコがチベット 801 名義で

漫画付き日常雑記ブログ『となりの 801 ちゃん』を開設。

<http://indigosong.net/> → <http://d.hatena.ne.jp/indigosong/>

当時交際していた女性（現在は夫人）が腐女子だったからと言う事で彼女の日常の

諸々をネタにし、腐女子としての内面を京都市北区御園橋 801 【はちまるいち】

商店街のマスコットキャラクター・801 ちゃん【2005 年 7 月誕生・同年 12 月命名】を

パロディー化した姿で描きつつ記事は展開された。

漫画の存在は 2006 年 5 月の小島の自己申告を経て御園橋 801 商店街の公認となった。

【マスコット経緯参照 やおいちゃん：やおいちゃんって？：御園橋 801 商店街

<http://yaoi801.kyo2.jp/c2842.html>】

なお、ブログの件は程なくして彼女の知る所となり（2006 年 8 月 7 日付記事）、

小島は後に自身を総受キャラにした同人誌を刊行するに至った。

【以下項目続】

【2006年4月18日項・続】

ブログは後に宙出版より単行本化（2006.12.14初版 / ISBN:4776793024）され、2013年11月時点の既刊は6巻・よりぬき版1巻・育児編【+と表記】1巻。派生作品として『となりの801ちゃん～腐女子的 高校生活～』がある。

（仁：絵。講談社刊行、全3巻）

二度に渡りDVDドラマ化（2007.9.5発売 / 2011.10.5発売）され

ドラマCD化（2008.4.23発売 / 2008.10.22発売）もされた。

2008年8月19日付で京都アニメーション制作による地上波アニメ放映が発表され、公式サイトも公開されたが、同月28日には公式サイトが消失し、詳細の明言はされなかったものの計画自体撤回され話自体無かった事にされた模様。

公式サイトURL <http://www.tbs.co.jp/anime/801/>

2006年5月

リブレ出版発足。

2006年5月12日

アクションコミックス・コミックHIGH（双葉社）より

紺條夏生・著「妄想処女オタク系」単行本第1巻が刊行される。

腐女子を主人公に据えたラブコメディ。

2010年9月11日、第7巻の刊行をもって完結。

2006年7月15日

櫻井しゅしゅしゅの単行本『ジャングル・キング』刊行。【マガジン・マガジン刊】

<http://www.amazon.co.jp/dp/489644115X/>

雑誌『GAME ピアス』12号及び13号（2004年2月及び4月刊行）掲載の

「THAT'S 美少年オークション in ヤオイコン」を再録。

巻末の作品初出一覧において『GAME ピアス』刊行年次を2006年と表記しているが2004年の間違いである。

参考【櫻井の個人サイトアーカイブ】↓

<http://web.archive.org/web/20041009164410/http://webs.to/noreset/>

2006年8月【日次不詳】

乙女ロードのガイドブックと称して乙女ガイド.comにより『東京乙女ガイド』が製作されサイトを通じての通信販売で頒布される。<http://www.otome-guide.com/> 【現存せず】

価格：3500円・版型：A5版・105頁・書類用ステンレスファスナー綴

なお、当該制作会社はこの2か月前に『隠れオタク支援委員会』なるサービスを立ち上げ、後に声優デビューしたい人の為のガイドサイトを運営した模様であるがその痕跡はネット上に遺っていない。

2006年8月7日

米国・DigitalMangaPublishingの（米国基準成人向け）ボーイズラブ作品専用サイト『801media』が開設される。これは同時にレーベル名でもある。

<http://www.801media.com/index.php>

なおこのレーベルにはマスコットが存在する。

801-chan と Tomo-chan なる女子である【デザイン担当は日本の漫画家・山田ぼたん】

参照記事

「What 801-chan and Tomo-chan really look like! 」

<http://www.801media.com/blog/?p=16>

「Happy Holidays! Happy New Year! 」 <http://www.801media.com/blog/?p=17>

2006年9月7日

世界初のショタアニメと銘打ち『ぼくのぴこ』【シリーズぴこ第1作】が発売される。

<http://www.pico.bz/>

販売元：ソフトオンデマンド・制作：ナチュラルハイ。成人向け作品として公開された。以降のシリーズ作も（第1作の一般向け再構成作品を除き）成人向けであった。

2006年9月8日

メンバー全員腐女子だと標榜するアイドルグループ・中野腐女子シスターズ結成される。

【→中野腐女シスターズ / 2010年4月28日改称】

【→中野風女シスターズ / 2011年7月16日改称】

2011年11月25日、音楽活動休止が発表される。

同グループの男装形態・腐男塾は2008年9月24日にCDデビュー。

メンバー全員が（中野腐男子学園出身の）腐男子であると標榜。

【→風男塾 / 2011年7月16日改称】

彼等をキャラクターとした漫画『風男塾物語』も刊行された。

【集英社・刊。種村有菜・作。全一冊。】

初出：「マーガレット」2011年16号～2011年23号】

2006年9月9日

こだか和麻『恋愛方程式』【リブレ出版】刊行。  
あとがきに於いてキャラクター化された担当編集・I本【編集部：岩本朗子】が  
リブレ出版の社名社内公募時に「801（やおい）出版」と投票しようとして  
スルーされたと告白。  
ネタであれ事実であれ、リブレ出版（＝ビブロス）とボーイズラブという言葉の  
位置関係を暗示する挿話かと思われる。  
なおこのあとがきは後にリブレ出版より刊行されたこだかのエッセイ漫画集  
『つれづれ絵巻 BL マンガ家のゆかいな日常』（2011年12月10日初版）に  
再録された。

2006年9月10日

こだか和麻『腐った教師の方程式1』【HUG文庫】刊行。  
メディアエーション：発行・飛鳥新社：販売と言う体制。  
（親本は青磁ビブロスより1993年12月に刊行）  
文庫用に描き下ろした後書きにおいてこだかは親本刊行前（曰く92年頃）の  
打合せ当時に回想し、コンセプトについて『やおい系漫画』【引用ママ】と表現。  
それに対する担当I本【編集部：岩本朗子】の返答は  
目標は『男のコ同士のマーガロット』【括弧内引用ママ】、であったと記している。

2006年10月1日

コミックマーケット第2代代表・米沢嘉博逝去。

2006年10月

大阪・松竹座において「染模様恩愛御書（そめもようちゅうぎのごしゅいん）」上演される。  
【発表当時の演目は「蔦模様恩愛御書（つたもようちゅうぎのごしゅいん）」。  
俗称「細川の血達磨」。】  
明治22年（1889年）以来の再演との事。  
筋書きに絡む衆道を公式サイドが暫しボーイズラブになぞらえた。  
同舞台から派生したBL小説が『紅蓮のくちづけ—染模様恩愛御書—』である。  
【小学館パレット文庫スペシャル版 / 深山くのえ・文、西炯子：漫画・イラスト  
/ 2006年11月1日初版】  
なお同舞台は2010年3月、東京・日生劇場にて再演された。

2006年11月【目次不詳】

団鬼六作の短編『美少年』【1997年5月、新潮社より刊行】実写映画化と  
情報公開される。監督は三池崇史を予定していた。  
<http://www.rakufilm.com/bishounen/> 【現在アクセス不可能】  
公式ページによれば2007年3月段階では主演の書類選考を終えていたという事  
であるが…。公式ページは2011年7月頃までは確実に稼働していた模様。  
なお、同作品は2005年3月、小野塚カホリによって漫画化され  
マガジンマガジンより刊行されている。

2006年11月24日

オリジナル実写作品『BOYS LOVE』、株式会社トルネード・フィルムより  
DVD発売される。

2007年3月

米・POP JAPAN TRAVEL 社、“Yaoi Bishonen and Boys Love Tour”を企画し来日。  
このツアーは後年“FUJOSHI PARADISE TOUR”“FANGIRL PARADISE TOUR”と名を変え定着。  
[http://web.archive.org/web/200701022205230/http://www.popjapantravel.com/tours/2007\\_yaoi.html](http://web.archive.org/web/200701022205230/http://www.popjapantravel.com/tours/2007_yaoi.html)  
ツアー企画当初から目玉として漫画家・立野真琴を交えての食事会が設定されていた。  
【これは2007年から2011年企画段階まで続いた企画である】  
なお、2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震発生の影響で  
2011年5月に予定されていた“FANGIRL PARADISE TOUR”は中止。  
以後再開検討中の状態が続く。

2007年4月11日

後藤田ゆ花『愛でしか作ってません』（講談社）刊行。  
【刊行発表時のタイトルは『ごめんね、ボーイズラブ』】  
ビブロス倒産時の状況を基に描かれた小説。

2007年6月20日

本邦のBL漫画家・Botan Yamada (山田ぼたん)による Yaoi MANGA 作成指南本・『Let's Draw Manga : Yaoi』がアメリカの出版社・Digital Manga Publishing より刊行される。全編英語。

<http://www.amazon.co.jp/dp/1569708681>

漫画作成マニュアルとして誠実な仕上がり。現在は Amazon Kindle 版でも確認が可能。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B002E91GZ6/>

2007年6月25日

批評誌『ユリイカ』(青土社)の臨時増刊号として「総特集 腐女子マンガ大系」刊行される。関連論客による見識の集大成。

同じ試みは2007年12月に臨時増刊号「総特集 BL (ボーイズラブ)スタディーズ」、2012年12月号「特集\* BL (ボーイズラブ) オン・ザ・ラン!」としても結実。

2007年7月~10月

韓国のボーイズラブ作品『絶頂』訳出刊行される。

(全4巻 / イ・ヨンヒ:作、安藤あき:訳/日本文芸社ニチブン KAREN コミック文庫) 本邦にて初めて訳出刊行された海外のボーイズラブ漫画であるか?

なお同書は Amazon 日本経由でドイツ語訳版【Egmont Manga + Anime GmbH / 7巻まで:現行全巻?】及び英語版【Dramaqueen / 3巻まで】が合わせて確認できる。

[米 Amazon ではフランス語版7巻【Samji Editions】も入手可能との事。]

原作は7巻まで刊行されている模様。

※参考 原著ページ → <http://winklove.jumps.co.kr/system/doc/comix/009/comix.html>

2007年7月20日

腐男子による WEB ラジオの嚆矢である「半熟☆びーえる帝国」配信開始。

パーソナリティ:半熟キング(ブログ「完熟☆腐男子」管理人) + 半熟王子。

後に半熟執事も参加【2008年8月より】

BL 小説レーベル・アズノベルズ(イーストプレス)提供による(恐らく現在唯一の)

腐男子によるスポンサー付 WEB ラジオ番組。同番組は2008年10月7日配信分、

通算22回目をもって更新停止。

2007年8月8日

トレジャーネット・インク日本支社と電子書籍配信会社 e-Book Japan の共同運営による日本初と謳われるボーイズラブ専門電子書籍サイト "e・boyslove.com" 開設。

<http://eboyslove.com/>

現在に至る。

2007年9月1日

トルネードフィルム制作実写オリジナル作品『BOYS LOVE 劇場版』、劇場公開される。

2007年9月10日

日本において画像作品展示ギャラリーを主体とした SNS サイト・pixiv が開設される。

<http://www.pixiv.net/>

devianArt より緩やかで、Y-gallery より厳しい性的規制が存在する。

2010年7月9日より小説投稿機能も実装した。

参照 <http://dev.pixiv.net/archives/1148017.html>

2007年9月29日

西欧の全寮制寄宿舎【ギムナジウム】をテーマにしたコンセプトカフェ、"Edelstein (エーデルシュタイン)" 開店する。

<http://project02.blog48.fc2.com/> <http://www.cafe-edelstein.com/>

2010年3月31日をもって閉店。

2007年12月7日

宙(おおぞら)出版より

『この BL (ボーイズラブ) がやばい! 2008年 腐女子版』刊行される。

界隈の特化ランキング本としては恐らく初めての存在。

なおタイトルは2011年12月刊行の2012年度版まで『△▼年 腐女子版』。

2012年12月刊行2013年度版よりは『△▼年度版』となる。

イメージカラーも2012年度版まではピンクに統一。2013年度版はブルーに刷新された。

なお、マスコットとして2012年度版までは小島アジコ・画の801ちゃん(及びその仲間達)が用いられていたが、2013年度版より中村明日美子・画の802【やおじ】くんが併せて

用いられる様になった。



2007 年 12 月 22 日

ごとうしのぶ原作の BL 小説【小説 JUNE 掲載作品】・タクミくんシリーズより『そして春風にささやいて』が映画化され劇場公開される。  
同シリーズからは最終的に 5 本の映画が製作された。  
<http://takumi-kun.com/>

2008 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2008 年版』マンガ文化項において「腐女子」が独立項目として登場。  
執筆者は秋田孝宏。腐女子関連書籍が散見され出した状況を受けての事か？  
2009 年度版では「オタク/腐女子」と項目名を変え、定義をやや曖昧にしている。

2008 年 3 月 12 日

腐女子専用ポータルサイトと銘打った“腐女子.JP”開設。  
<http://fujyoshi.jp/>  
経営はトレジャーネット・インク日本支社による。後にトレジャーメディア株式会社に移管。

2008 年 3 月 21 日

ボーイズラブ専門書評サイト“ちるちる”開設される。  
<http://www.chil-chil.net/>  
経営は 2007 年 11 月創設の株式会社サンディアス。  
商業書籍のみならずあらゆる BL 媒体のデータベース化を目指す。  
レビュアー兼データ入力者は公募。

2008 年 3 月 29 日

中国の報道を翻訳配信するニュースサイト・レコードチャイナに以下の記事が掲載される。  
<第3の言語>「萌～！」若者に、じわじわ広がる日本の「アキバ語」—中国  
<http://www.recordchina.co.jp/group/g17210.html>  
文中でショタコンの漢字表記が「小太」であると紹介される。【実際は「正太控」】

2008 年 4 月

中村春菊原作の BL 漫画作品『純情ロマンチカ』がアニメ化され地上波放映される。  
BL 漫画雑誌に連載された作品の地上波連続アニメ化としては初の出来事。  
公式サイト <http://www.suzukisan.info/>  
同年 10 月からは第 2 期が放映された。

2008 年 4 月【日次不詳】

文化系女子による情報発信プロジェクト“乙女ディア”発足。  
<http://otomedia.jp/>  
同月 23 日には後に霜月紫と改名する変態腐男子サイボーグ・YATCH も参加。  
他にも腐男子を名乗るパーソナリティーが順次合流し、ニコニコチャンネル「乙女ディア腐女子放送部」へと発展。  
<http://ch.nicovideo.jp/ch801>

2008 年 4 月 20 日

マガジン・マガジンより『恋 JUNE』VOL. 6 発行。  
付録：撮り下ろしゲイビデオドラマ 40 分「天使とオレ」天使編。  
マガジン・マガジン（＝ジュネット）刊行物に撮り下ろしゲイビデオドラマ収録の DVD が付録として付される様になった端緒か？

2008 年 5 月 2 日

乙女用ポータルサイト“がる★パラ！”開設。  
<http://www.garupara.jp/> ガンホー・オンライン・エンターテイメント株式会社運営。  
Web アーカイブのデータに拠れば 2015 年 4 月乃至 5 月に運用終了になっていた模様。

2008 年 6 月

漫画家・新田祐克の写真構図盗用問題発覚。  
検証サイト → <http://nittakensyou.g.ribbon.to/>

2008 年 6 月 20 日～22 日

米版元 Yaoi PRESS 後援のコンベンション “Yaoi Jamboree” 開催される。  
後にイベント名を “Yaoi Jam” と称したりもした。開催地はアリゾナ州フェニックス。  
<http://www.yaoi-jamboree.com/> 【往時の状況はWebArchiveで遡上推奨。現行は別サイト。】  
本邦からはつだみきよ（蔵王大志）・影木栄貴・葵二葉&紅三葉がゲストとして招聘された。  
イタリアからは女性コンビの漫画家・Le Peruggine が招聘された。  
<http://leperuggine.blogspot.jp/>

2008年7月1日

『BOY'S ピアス』2008年7月号【マガジン・マガジン刊】に  
乙里玲太郎作「AYUMU ～ホモビの国の王子様」掲載。  
実在のゲイビデオ男優の在り様を漫画化したと言う触れ込み。

2008年7月30日

大阪府・堺市役所に以下タイトルの市民の声が寄せられる。

『BL 図書を購入した趣旨や目的、またこれまでに購入した冊数  
及び購入費を教えてください』

[http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/\\_shimin/pastdata/5374.html](http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_shimin/pastdata/5374.html)

この投書がきっかけとなり5500冊余のBL小説がリストアップされ、  
同年8月以降11月まで未成年への貸出に相応しくないと

判断された上で一時的に閉架図書扱いとなる。

この動きはネットを中心としたマスコミ各社の話題となり年末まで報道は続いた。

以降初期経緯資料→『堺市立図書館BL関係報道』

[http://bllogia.files.wordpress.com/2013/05/2008\\_sakai-bl\\_mass-communication.pdf](http://bllogia.files.wordpress.com/2013/05/2008_sakai-bl_mass-communication.pdf)

2008年10月【日次不詳】

『JUNE』関連の発行元がマガジン・マガジンから新たに創業されたジュネットに移管された。

<http://company.june-net.com/>

<http://www.june-net.com/>

2008年11月8日

石田美紀・著『密やかな教育—くやおい・ボーイズラブ前史—』（洛北出版）刊行。

<http://www.rakuhoku-pub.jp/book/27088.html>

ジェンダー論によらず史実確認を中心にJUNE草創期を再構築し解説。

2008年12月1日

『サイズー』12月号発行 サイズー刊

2005年の記事に比較すると現場の証言の比重が大きくなった内容。120～129ページ。  
表紙の案内は『ボーイズラブの魅力とは？ 同性愛マンガにはまる男子急増のナゾ』。

\*\*\*\*\*

[サイズー発、日本全国「腐男子」育成計画！]

男同士の禁断のラブに萌える「腐男子」のヒミツ、教えます

\*\*\*\*\*

小石川光希＋アボンヌ安田＋編集部：文 都築潤一：イラスト

金田淳子（社会学・ジェンダー論研究者） / 水野正文（ジュネット編集局長）

上杉久代：マンガ / 122～123ページ（見開き）

☆☆☆

人気作品クロスレビュー

吉本たいまつ（腐男子代表；おたく文化史研究者）

まあがりん（ゲイ代表；ゲイバー「あっぱれ！」ママ）

渡部伸（童貞代表；「全国童貞連合」代表）

☆☆☆

田亀源五郎：インタビュー / 126ページ

☆☆☆

腐男子腐女子座談会 ※肩書略

半熟キング（腐男子） / Variante（腐男子） / たかちゃん（腐男子）

ムラサキ（腐男子） / ハザキ（腐男子） / こもん（腐男子） / 瞬（腐男子）

ほっぺ（腐女子） / あらと（腐女子）

2008年12月30日

同人誌『腐男子にきく。』（吉本たいまつ・編著）刊行。

学術的な面から腐男子の存在を考察した一冊。

翌2009年3月8日には諸事情により同書の改訂版が刊行される。

また続編『腐男子にきく。2』が2010年8月15日に刊行される。

2009年2月24日

ネット上の情報によれば同日ふゆーじょんぷろだくとより『半熟たまご』と言うタイトルの  
忍たまアンソロジーが刊行される予定であったが刊行中止になっていたとの事。

詳細は不詳。

資料 → <http://www.gankodo.jp/newinfochange.pdf>

<http://okwave.jp/qa/q4869226.html>

2009 年 3 月 5 日

女性週刊誌『女性セブン』【小学館】3 月 5 日号中綴じに於いて

水城せとな作「キッキング・グーラミー」

（『窮鼠はチーズの夢を見る』[2009 年 5 月 8 日初版 / 小学館] 所収）を  
教材とした「はじめてのBL～ボーイズラブ～」なる講座が掲載される。  
別ページでは解説やブックガイドも掲載された。

2009 年 4 月 1 日

ボーイズラブ専門書評サイト「ちるちる」が独自のBLアワード第 1 回を開催。

<http://www.chil-chil.net/viewer/rank2009/>

以降毎年一回、ユーザーおよび一般からのネット投票によって実施。

2014 年実施 / 第 5 回 → <http://www.chil-chil.net/blAwardRank/y/2014/>

[ 2013 年度内には行われず ]

2009 年 4 月 4 日

腐男子ポータルサイト“腐男子.net”、中国にて開設される。

<http://www.fudanshi.net/>

2009 年 4 月 10 日

講談社アフタヌーン新書創刊ラインナップとして

fujyoshi syndicate ・著『なぜ、腐女子は男尊女卑なのか』刊行される。

少なくとも研究書と言う趣の一冊ではない。

2009 年 4 月 10 日

ブックマン社より竹内佐知子・著

『くされ女子！ 百合で腐女子なサチコとゆかいな腐友たち』刊行される。

レズビアンであり腐女子であると自認する著者による腐の現状エッセイレポート漫画。

巻末ゲストマンガ冒頭にえすとえむが見開き 2 頁を寄稿し、その本文中に

研究者の杉本 = バウエンス・ジェシカが登場する。

続刊『くされ女子！ in Deep』は同年 11 月 30 日に刊行された。

2009 年 4 月 23 日

ソフトバンククリエイティブ【 TOKYOPOP Global Manga Series 】より

ピンクサイコ ( Heath & Nheira ) 『 In the End ~最果ての二人~』訳出刊行される。

おそらく欧米発翻訳ボーイズラブの嚆矢であるか？

原著は 2006 年 10 月に TOKYOPOP GmbH 【ドイツ】にて刊行され、後に英訳されて

TOKYOPOP より刊行された [2008年2月]。2009 年 8 月にはTAIFU COMICS より

フランス語版も刊行された模様。

日本語版は耽美色を意識し、それまでの装丁と方向性を変えている。

それに合わせ 2010 年 7 月、日本語版と同じ装丁の原著新装版が刊行された。

原著 <http://www.amazon.co.jp/dp/3865804489>

英訳版 <http://www.amazon.co.jp/dp/1427807183>

日本語版 <http://www.amazon.co.jp/dp/479735433X/>

フランス語版 <http://www.amazon.co.uk/dp/2351803094>

原著新装版 <http://www.amazon.co.jp/dp/3867193223>

原著刊行から日本語版刊行までの間に Nheira は単独でモデル・音楽活動にと  
表現範囲を広げる。

参考 『 LIBERTY 』 <http://www.amazon.co.jp/dp/4901491784>

なお、Nheira はこの年開催のコミケット 76 以降サークル参加者として

しばしば同人誌即売会【コミケット及びコミティア】に参加する様になる。

2012 年集英社刊行ミラクルジャンプ誌上で行われた第 2 回ミラクルコミック大賞第 2 期では  
ロキ名義で執筆した『空船伝説』で奨励賞を受賞。

そして彼は 2012 年 10 月 18 日、名義を KAI に改めイラストレーター・漫画家・  
モデルとしての活動を継続している。

以上 Nheira 名義ブログ <http://ameblo.jp/nheira/> 及び

KAI 名義ブログ <http://ameblo.jp/khaoskai/> と Amazon に拠った。

2009 年 5 月 20 日

日丸谷秀和・作『ヘタリア』が台湾にて『義呆利 Axis Powers』のタイトルで

訳出刊行される。

記述者が確認する限り、同作品を訳出刊行した嚆矢であると思われる。

【英語版刊行： 2010 年 9 月、ドイツ語版刊行： 2012 年 3 月】

2009 年 7 月 17 日

一迅社より大崎祐美・ポストメディア編集部：著『腐女子のことば』刊行。  
特化した独立刊行専門用語集としては初になるか？  
今遣われている言葉をさらりと外部に向かって解説した感。

2009 年 8 月 5 日

一迅社より祥寺はるか・作の 4 コマ漫画単行本『僕の彼女は同人腐女子』刊行。  
描かれている事象はかなり正確。

2009 年 11 月 1 日

乙女のための図書館・cafe801 (カフェハチマルイチ)、現在地にて開店する。  
<http://cafe801.org/>  
月に数日間、男子入店可能期間も設けられている。

2009 年 11 月 20 日 ~ 22 日

米・ミズーリ州セントルイスにて総合イベント " Bishie Con " が開催される。  
<http://bishiecon.com/>

開催の様子は現地でも報道された模様。

Girls Who Love Boys Who Love Boys: Inside the Midwest's first celebration of all things yaoi — where the screaming never stops

<http://www.riverfronttimes.com/2009-12-09/news/girls-who-love-boys-who-love-boys-inside-midwest-first-celebration-yaoi-screaming-never-stops/>

以降 2011 年に至るまで 3 回開催された。

2009 年 12 月【詳細日次不詳】

米の専門出版社・YAOI PRESS が電子書籍専用小説サイト・Yaoi Prose の運用を開始する。

<http://www.yaoiprose.com/>

並行して自社刊行作品の電子化を順次行う。

2009 年 12 月 30 日

株式会社創作工房が『BL かるた 受』を刊行。

声優を起用した詠み上げ CD というのはかるたとのセット。

翌年 1 月 1 日には『攻』も刊行される。【受声優：鳥海浩輔、攻め声優：森川智之】

オリジナル商業作品としては恐らく初の試み。

2010 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 2010 年版』マンガ項執筆者、吉村和真に交代。

再び「腐女子」が独立項目となる。2016 年版に至るまで (折々の進展を併せて書くが)

本文及び定義骨子の変化はみられない。

2010 年 2 月

東京都議会に「東京都青少年の健全な育成に関する条例」一部改正案が提出され、

その内容がネットを中心として論議を呼んだ。所謂『非実在青少年』問題とも呼ばれるもの。

2013 年現在もなお論の熾火は消えぬまま。

2010 年 3 月 14 日

オランダの都市・アーネムに在る多目的会館 " Willemien " にて

" Dutch Yaoi & Yuri Convention " が開催される。

<http://www.yaoicon.nl/> 【現在稼働無し】

2010 年 4 月 25 日

三和出版より『同人誌の森 (紅組)』刊行される。

女性向け同人誌ガイドブック。

増加しつつあった同人誌通販ショップにも対応の内容。

2010 年 4 月 27 日

特許庁に『男の娘』(おとこのこ)の商標登録が出願される。

出願番号：商願 2010-33669。

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1007/30/news096.html>

申請者は株式会社未来少年。出版物への利用が目的との由。

最終的には受理されず。

2010年5月31日

日本初、と銘打ったボーイズラブバー「Miracle Jump」、秋葉原にてオープン。在籍する男性店員は皆腐男子と言う触れ込み。また二次元スタッフ（鳥丸：画）と言う存在も用いた接客展開を執り行う。二次元スタッフも皆腐男子と言う設定。  
公式サイト <http://www.miraclejump.com/>  
公式ブログ <http://ameblo.jp/miraclejump801/>

2010年6月1日

特許庁に『男の娘☆』（おとこのこ）の商標登録が出願される。  
出願番号：商願 2010-43337。  
申請者は関連イベント「男の娘☆ Convention」の関係者であるとの事。  
イベント限定利用に関しての出願との事。  
参考 <http://otokonoko.monolis.jp/otokonoko.php>  
2011年9月9日に受理登録された。登録番号第 5437080 号。

2010年6月11日

ふゅーじょんぷろだくとよりA5版としては最後になる『コミックボックスジュニア』刊行。  
2010年7月号・通巻 181号。内容は同人情報主体。  
<http://www.amazon.co.jp/dp/B003053D16>

2010年7月13日

ふゅーじょんぷろだくとより『コミックボックスジュニア』がB5版にリニューアルされて刊行。  
2010年8月号・通巻 182号。誌名の通称が『ジュニア』となった模様。  
<http://www.amazon.co.jp/dp/B003TXIIBI>

2010年7月23日

幻冬舎よりふゅーじょんぷろだくと宛てて『コミックボックスジュニア』通巻 182号におけるヘタリア同人作品の扱いについてネット上で謹告が公開される。  
<http://www.gentosha-comics.net/hetalia/2010/07/post-12.html>  
遡る事同年5月19日にも類似内容の謹告が公開されていた。  
【該当掲載誌は『コミックボックスジュニア』通巻 173号及び『コミックボックスジュニア』10月号増刊】  
<http://www.gentosha-comics.net/hetalia/2010/05/oshirase3.html>  
これらの謹告に対しふゅーじょんぷろだくと側から7月30日付で回答文が公開された。  
<http://www.comicbox.co.jp/jr/kinkoku.html>  
この件については個人に責任を負わず同社が責を負う、とする内容。

2010年7月31日

中国にてWEB経由でオリジナル BL アニメ『弦月夢影』制作発表される。  
[http://blog.sina.com.cn/s/blog\\_6a6697990100ku4j.html](http://blog.sina.com.cn/s/blog_6a6697990100ku4j.html)  
同作品は諸事情を経て2012年7月に頒布再開が宣言されるも現在詳細不明。  
【参考動画】 [弦月夢影] 正式版PV <http://www.youtube.com/watch?v=e11YWGyx54s>  
【参照】弦月夢影\_百度百科 <http://baike.baidu.com/view/4173643.htm>

2010年8月5日

ジュネットより付録付ムック「おもちゃピアス」創刊。  
創刊号の付録は単 5 電池で駆動する電動マッサージ機。「快感電マ」との謳い文句。  
第 2 号の付録は振動装置つき紙相撲セット。以降の 3 号 4 号は誌名に反し DVD 及び冊子が付録となった。2011年12月29日刊行の第 4 号にて廃刊になった模様。  
版元から年齢制限は付されていないが Amazon では創刊号が年齢制限付の取り扱いとなった。

2010年9月11日

大阪市立大学文化交流センターにてシンポジウム「やおい /BL (研究) の今を熱く語る」が開催される。  
【主催：大阪市立大学人権問題研究センター、  
共催：NPO 法人ウィメンズアクションネットワーク、大阪腐女子研究会 [2009年発足]】  
<http://wan.or.jp/reading/?p=364>  
以下参照  
シンポジウム「やおい/BL (研究) の今を熱く語る」のエコー <http://togetter.com/li/50207>  
記録PDF [http://dlistv03.media.osaka-cu.ac.jp/infolib/user\\_contents/kiyo/DBj0110005.pdf](http://dlistv03.media.osaka-cu.ac.jp/infolib/user_contents/kiyo/DBj0110005.pdf)  
同シンポジウムは以降『やおい /BL シンポジウム』とタイトルを変え、毎年一回開催される様になる。

\*\*\*\*\*

【以下項目続】

【2010年9月11日項続】

第2回：2011年10月2日

「JUNE 小説を書く女性たち ～『中島梓の小説道場』の時代」

主催：大阪大学グローバルCOEプログラム「コンフリクトの人文国際研究教育拠点」

会場：大阪大学豊中キャンパス大学教育実践センター研究棟2階

スチューデント・コモンズ セミナー室1

[http://wan.or.jp/information/index.php/event\\_show?id=1089](http://wan.or.jp/information/index.php/event_show?id=1089)

\*\*\*

第3回：2012年9月9日

「やおい / BL を研究する——方法論とディシプリン」

主催：大阪市立大学大学院文学研究科都市文化研究センター

共催：大阪腐女子研究会

協力：大阪市立大学都市研究プラザ、京都社会調査研究会

会場：天神橋アートセンター

[http://shukinoshita.wordpress.com/2012/07/26/yaoi\\_bl\\_sympo\\_2012/](http://shukinoshita.wordpress.com/2012/07/26/yaoi_bl_sympo_2012/)

\*\*\*\*\*

第4回：2013年12月15日

「BL のカラダ——マンガ表現にみる男性身体」

主催：第4回やおい / BL シンポジウム事務局

会場：京都精華大学 本館3階 H-303

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/info/event/event/2013/12/15/19851/>

\*\*\*\*\*

2010年9月【日次不詳】

同人誌データ DL 頒布サイト・DLsite.com、女性向けモバイルサービス開始。

Girl's Maniax Mobile → <http://www.girlsmaniax.net/>

PC版サイトと連携したものでは無い独立サイト扱い。

2012年9月【日次不詳】サービス終了。

後継はPCとスマートフォン共用サービス『Girl's Maniax Touch!』。

2010年10月2日

腐男子研究同人誌『腐男子にきく。』編著者 / おたく史研究者・吉本たいまつ、

ニコニコ生放送放送主・黒猫ゆうすけ、及び ぶどううり・くすこを登壇者とした

トークショー「腐男子なう」が東池袋のコミックカフェ・cafe801【カフェハチマルイチ】

にて開催される。腐男子の現状を当事者の視点で言及する試み。

[http://cafe801.org/event/kikaku\\_010.html](http://cafe801.org/event/kikaku_010.html)

同年12月11日には第2回を開催。

[http://cafe801.org/event/kikaku\\_013.html](http://cafe801.org/event/kikaku_013.html)

なお、開催当日の内容記録は現存せず。

2010年12月26日

香港の萬聯文化事業有限公司より『腐女子の日語エロ50音』刊行。

あいうえお5母音の擬人化を案内役とした50音で始まる日本語短文例集。

腐女子向け日本語教材を謳う。

萬聯文化事業有限公司；現在PIXIVのみ稼働；<http://www.pixiv.net/member.php?id=4041948>

本邦内紹介ページ → <http://www.st.rim.or.jp/~nmisaki/topics/fujoshi50on.html>

2011年3月には同じコンセプトの下習字帖も刊行された。

現在版元 URL ( <http://www.aniunite.com/wordpress/> ) にはアクセス不可能状態。

2011年1月1日

『現代用語の基礎知識 2011年版』外来語項において「ショタコン」登場。

同項は過去に「最新カタカナ・略語辞典」等とも称された。執筆担当は堀内克明と大森良子。

ファンロードによる提唱(金田)正太郎コンプレックス典拠の簡素な説明、だったのだが、

2014年版において突如『米俗語 short eye に由来』と方向転換。

(堀内がかつて1999年版で解説したショートアイズコンプレックス説を踏襲したものか?)

同説を2015年版で踏襲した後2016年版では『米俗語 short eye に由来する説もある』と後

退。

2011年1月7日

(株)ピクト・プレス営業停止。自己破産へ。編集プロダクションを経て出版社へ。

二次創作アンソロジー及び個人選集で急成長するも…。

なお、刊行物等の残務処理の一部は同じくアンソロジー刊行事業で頭角を現した

CLAP が執行している。

2011 年 1 月

京都を拠点にするアートユニット・0000（オーフォー）が  
Twitter 上の遣り取りから発展解釈された自分達の BL 的弄られを容認。  
そこから彼等を BL 的に解釈した絵画展発足へと展開。

0000! OH, HOT! —0000 BL ANTHOLOGY—

<http://hidari-zingaro.jp/2011/01/0000-ohhot/>

1 月 13 日～1 月 18 日 於：東京中野・Hidari Zingaro

公認のナマモノ同人誌も制作され、期間中の 16 日には展示時間終了後に  
BL 勉強会が設けられる。

<http://hidari-zingaro.jp/2011/01/0000-ohhotbl/>

ここから派生して現在も継続しているのが cafe801 を会場にして

不定期開催されている BL ビブリアバトルお茶会『BLT ～ BL teatime in Cafe801 ～』

<http://com.nicovideo.jp/community/co1269020>

BLT 成立までの経緯詳細についてはぶどうり・くすこによる記述を参照。

<http://xqosy.seesaa.net/article/322485977.html>

2011 年 3 月 27 日

“ YAYCON — YAOI and YURI Convention — ” オランダ・エンスヘーデにて開催の様様。

<http://yaycon.nl/> → <http://2014.yaycon.com/>

以降毎年一回開催されている様子。

2011 年 6 月 3 日～10 月 2 日

明治大学・米沢嘉博記念図書館 1 階展示コーナーに於いて

「耽美の誕生～ボーイズラブ前史～」展が開催される。

関連資料の実物も公開された希少な展示会。

\* \*

また往時の関係者も登壇したトークイベントも開催された。

6 月 26 日『永遠の 6 月（JUNE）』登壇者：柿沼英子・佐川俊彦

8 月 6 日『密やかな教育』登壇者：石田美紀

参照：

[http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa\\_lib/exh-tanbi.html](http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/exh-tanbi.html)

<http://www.douban.com/group/topic/22830085/>

[http://d.hatena.ne.jp/yonezawa\\_lib/20110604](http://d.hatena.ne.jp/yonezawa_lib/20110604)

\* \*

なお、往時刊行された雑誌『JUNE』の誌名は 6 月或いは作家のジャン・ジュネが  
由来ではなく、当年表 1979 年の項目にある様に偶然が重なって生まれたもの。

トークイベントのタイトルは何かの洒落であろうか？

2011 年 6 月 12 日

札幌を拠点に活動する腐女子で構成される同人集団・ガール社刊行、

評論誌『girl!』創刊。

腐女子腐男子そして現場による活きた評論を目指し、2013年10月時点で

4 冊が刊行されている。

<http://girlsha.com/> <http://girlsha.com/girl/> <http://girlsha.com/girl3/>

<http://girlsha.com/girl4/>

2011 年 7 月 9 日

男子高+ボーイズラブをコンセプトとしたカフェバー “ 池袋男子 BL 学園 ” 開店。

<http://www.blcafe.jp/> <http://ameblo.jp/blcafe/>

[http://twitter.com/BLcafe\\_ikemen](http://twitter.com/BLcafe_ikemen) <http://com.nicovideo.jp/community/co1666872>

紹介記事 → <http://news.toshimaku-town.com/2065/>

店員は皆腐男子との事。2016 年現在も営業継続中。

2016 年 5 月 7 日には大阪難波に大阪校を開校（開店）した。

2011 年 8 月 21 日

ネットから発生した同人サークル・「アングラバンビ」によって

『普通の男子にBL書かせたアンソロジー』刊行される。

ツイッター上のネタの遣り取りから創作実験として生み出された一冊。

後に電子書籍化もされた。

<http://undergroundbanbi.web.fc2.com/>

<http://p.booklog.jp/book/35615>

2011 年 10 月 24 日

英語圏向けボーイズラブ特化電子書籍レーベル『 SuBLime 』発足。

<http://www.sublimemanga.com/>

2012 年 6 月以降、紙媒体も刊行開始した。

参照：<http://ebook.itmedia.co.jp/ebook/articles/1110/25/news075.html>

2011 年 10 月 27 日

株式会社アイ・ポイント、Android OS 対応女性向けコミックアプリ「GiGicomi」配信。

<http://www.gigicomi.com/>

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000001.000004218.html>

2012 年 7 月には iOS 対応版リリース。

<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000002.000004218.html>

2011 年 10 月 29 日 ~ 30 日

フランス・リヨンにて総合イベント “ Yaoi Yuri Con ” ( YY CON ) 開催。

<http://www.event-yaoi.fr/>

以降毎年一回開催。

2011 年 11 月 3 日

「からあげは総受け」を営業コンセプトに掲げたトッピングからあげ専門店・  
“からあげボーイズラブ”が名古屋市にて開店。

<http://chara-bl.com/>

[http://twitter.com/Chara\\_BL](http://twitter.com/Chara_BL)

諸事情により一旦閉店しその後移転・営業再開。

<http://xaiosucbl.web.fc2.com/>

当初は際物視されるも、徐々に認知されている模様。

なお、2013 年 3 月 19 日、飛躍の為の準備期間に入ったと称し一時休業した。

[https://twitter.com/Chara\\_BL/status/314119522934222849](https://twitter.com/Chara_BL/status/314119522934222849)

また、2013年2月13日には「からあげボーイズラブ、売ります」と称し

フランチャイズ店募集のページを立ち上げていた。

<http://xaiosucbl.web.fc2.com/n-brand/n-brand.html>

現在公式からは営業再開・フランチャイズ展開についての言及なし。

2011 年 11 月 11 日

ふゅーじょんぷろだくとより『ジュニア』【旧コミックボックスジュニア】最終号刊行。

2011 年 12 月号・通巻 195 号。同人誌情報誌からオリジナルコミック誌へ変わる過程。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B005ZUT73G>

2011 年 11 月 25 日

東京大学見聞伝ゼミナール有志主催による『 BL Teatime in 駒場 2011 』が  
東京大学駒場祭の自主企画として駒場キャンパスにて開催。

<http://kenbunden.net/general/archives/2311>

これは同年 6 月 25 日を皮切りに開催された『 BLT ~ BL teatime in Cafe801 ~ 』を  
ヒントに講演会+パネルディスカッション形式で展開されたもの。

2011年12月13日

ふゅーじょんぷろだくとより『コミック Be 』創刊。『ジュニア』のリニューアル誌。

2012 年 1 月号・通巻 1 号。オリジナルコミック誌の性格強し。以後継続。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00680X1Y4>

2012 年 2 月

Twitter 上で #BL短歌 タグによる BL 短歌朗詠が創始され拡散し、  
現在に至ると思われる。

参照：『 BL 短歌』 <http://togetter.com/li/253647>

それ以前にも個々による朗詠の試みはあったと思われるが、うねりと

言う形で感覚化共有化されたのは恐らく初めてであろうかと。

その感覚の共有の結実として同年 11 月 18 日、合同誌『共有結晶』が

創刊され、2013 年 11 月 4 日に第 2 巻及び別冊が、2014 年 11 月には

第 3 号が刊行された。

この動きは派生として BL 俳句の流れを生んだ。

2012 年 2 月 14 日

ニコニコ生放送の公式番組として 2006 年にトルネードフィルムが製作した  
DVD 作品『 BOYS LOVE 』が配信される。

<http://live.nicovideo.jp/gate/lv80831101>



2012年3月3日

秋月こお原作のBL小説【角川書店ルビー文庫・刊】・  
『富士見二丁目交響楽団シリーズ 寒冷前線コンダクター』が  
金田敬（かねだ さとし）監督の下実写映画化され劇場公開される。  
<http://ameblo.jp/fujimi2partners/>  
<http://fujimi-2.com/>

なお同作品は1997年6月にJUNE-VIDEOとしてマガジン・マガジンより  
『寒冷前線 / 雨のち嵐』のタイトルでOVA化され世に出ている。  
※参照 別冊 JUNE 7月号巻末広告【1997年7月1日発行、マガジン・マガジン刊】

2012年3月15日

女性専用と銘打ったゲーム特化（モバイル特化）SNS “BLobby” 開設。  
<http://blby.jp/>

2012年5月下旬【日次不詳】

新書館公式サイトにて同社刊行の『是 ze』（志水ゆき著・本編11巻完結）  
実写映画化と言う情報が公開される。

<http://www.shinshokan.com/comic/information/82.html>

【同年10月下旬頃までのアクセス可能を確認】

【参考】 <http://www.chil-chil.net/compNewsDetail/k/blnews/no/1365/>  
しかしその後、同じく新書館公式サイトにて2013年3月、当初の告知とは  
一転した様子告知がなされ、現状進展なし。

<http://www.shinshokan.com/comic/information/130.html>

2012年5月21日

Amazon 経由で Kindle 版【電子書籍】にて Yaoi-Con 2011 の招聘ゲスト・  
稲荷家房之介によるイベントレポートが刊行される。  
発行元は Digital Manga Publishing。  
<http://www.amazon.co.jp/gp/product/B00856ARP4>

2012年8月28日

リブレ出版より18禁オリジナルアンソロジー『PINK GOLD』刊行。  
[http://www.b-boy.jp/hotnews/pinkgold\\_top/](http://www.b-boy.jp/hotnews/pinkgold_top/)  
モザイク無。ISBN を付さず取次を通さない独自の流通方法を用いた。  
同書は後に電子書籍としても流通。

2012年9月10日

リブレ出版より咎井淳（Jo Chen）参加のユニット・Guilt|Pleasure の著作  
『IN THESE WORDS』訳出刊行。  
初版分が訳出BLでは恐らく初めて品不足による入手困難な状態に陥る。  
ちなみに Jo Chen は YAOI-CON に 2003 年以降ほぼ毎年ゲストとして招聘されている。  
GuiltyPleasure はこの年の夏よりコミケットに参戦。  
なお、これに先駆けて『IN THESE WORDS』英訳版が 801media より 6 月に  
刊行されたがこちらも一時品切れ状態となった。  
2013 年 6 月に Tokyopop GmbH よりドイツ語訳通常装丁版とハードカバー版が  
刊行された。2014 年 5 月に第 2 巻の邦訳版が刊行されそれに先駆けてと言う形で 4 月に  
Tokyopop GmbH よりドイツ語訳通常装丁版とハードカバー版が刊行された。  
なお、第 2 巻の英訳版は刊行されていない。

2012年10月【日次略】

2ちゃんねるを起点とした『黒子のバスケ』脅迫事件勃発。  
【藤巻忠俊：作・集英社刊行週刊少年ジャンプ掲載・アニメ化もされた】  
原作サイドと並行して二次創作流通の場に対し圧力をかけると言うスタイルを  
とっていた。  
なお最初声明を発表した「喪服の死神」を名乗る者は当初年内に自死すると  
宣言したが、2013年1月17日、起点となったスレッドに怪人 801 面相を名乗る  
関係者と自称する人物がグリコ森永事件の実行犯・かい人21面相の文体を模した  
書き込み（声明）をなし、喪服の死神の生存を告げるとともに同人誌関連への圧力停止・  
原作サイドへの圧力の一時停止を一方向的に告げた。  
ネットに始まりネットを經由しネットに終わった、と思われる事象の為  
現存する情報の解釈も錯綜している模様。  
実在した事例として記述しておく。

2012 年 11 月 6 日

株式会社パピレス運営の電子書籍投稿サイト「upppi (ウッピー)」、  
upppi 小説投稿コンテスト第 2 弾に「upppi ボーイズラブ小説コンテスト」を開催。  
[http://upppi.com/ug/sc/page/bl\\_contest.html](http://upppi.com/ug/sc/page/bl_contest.html)

賞金総額を 80.1 万円と設定し注視される。

2013 年 1 月 29 日まで作品を募集した結果、116 作品の応募があった。

[http://upppi.com/ug/sc/page/bl\\_contest\\_result.html](http://upppi.com/ug/sc/page/bl_contest_result.html)

大賞受賞作あり。

2012 年 12 月 7 日

腐女子 JP の新企画として WEB ラジオ・“ちゃんねる S” 発動。

[http://www.fujyoshi.jp/main/channel\\_s](http://www.fujyoshi.jp/main/channel_s)

[http://twitter.com/radio\\_channels](http://twitter.com/radio_channels)

<http://ameblo.jp/radio-channels/>

腐女子・乙女向けを標榜しつつ健全な内容を目指す。

パーソナリティは鈴木智晴と椎名泉妃。

2013 年 10 月 18 日、第 22 回配信をもって終了。

2012 年 12 月 27 日

腐女子 JP の新企画として“腐女子 net.TV”【フジョネッティーヴィー】発動。

[http://www.fujyoshi.jp/main/fujyonet\\_tv](http://www.fujyoshi.jp/main/fujyonet_tv)

後にニコニコチャンネル化する。

<http://ch.nicovideo.jp/fujyoshi.jp>

2012 年 12 月 28 日

『コミック JUNE』（ジュネット刊）、2013 年 2 月号にて休刊となる。

定期的に刊行される JUNE ブランド雑誌はこの時点で一切なくなった。

この時点で JUNE ブランドを継承しているのは不定期刊行ムック扱いの

『DVD JUNE』のみとなる。

2013 年 1 月 11 日 ~ 13 日

米カンザス州ラマダにて総合イベント “Ahn! Con” 開催される。

【イベント名には日本語で「アンカン」のルビが振られている】

<http://ahn-con.com/>

2014 年も開催との事。

2013 年 2 月 9 日

新書館ディアプラス文庫のサブレーベルとしてモノクローム・ロマンス文庫創刊。

海外で刊行された男同士のロマンス小説、メンズロマンス（またはメンズラブ）の  
訳出を扱う。

2013 年 2 月 22 日

メディアファクトリーより WEB 小説マガジン『fleur』[フルール] 創刊。

<http://mf-fleur.jp/>

レーベルとして男女のロマンスを描くルージュラインと男性同士のロマンスを描く  
ブルーラインを擁する。

同年 9 月 13 日には紙媒体としてフルール文庫を創刊。

2013 年 3 月 1 日? 【詳細日次不詳】

リブレ出版の 18 禁 BL レーベル・X-BL 公式サイトが公開された模様。

<http://x-bl.jp/confirm/>

2012 年に刊行された 18 禁 BL アンソロジー『PINK GOLD』の延長線として。

2013 年 3 月 7 日

リブレ出版より『MAGAZINE BE×BOY』2013 年 4 月号が創刊 20 周年記念号として刊行。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00BGDNF8E/>

<http://www.b-boy.jp/hotnews/mbb20th/>

2013 年 3 月 14 日

秋葉原のボーイズラブバー「Miracle Jump」が

4 月 14 日に閉店する旨を公表。

詳細な理由は明かされていない。

\*\*\*\*\*

公式サイト記述 <http://www.miraclejump.com/update.php?all>

公式ブログ記述 <http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11489919353.html>

ニュースブログ「アキバ日報」記事 <http://akibanippoh.lblog.jp/archives/1709582.html>

2013 年 4 月 1 日

ジュネット公式サイト、サイトデザイン更新を機に名称を『ジュネット』から『ジュネット Web』に変更。URL はそのまま。  
<http://www.june-net.com/>

2013 年 4 月 14 日

秋葉原のボーイズラブバー「Miracle Jump」が予告通り閉店。

\*\*\*\*\*

公式ブログ記述 <http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11510924906.html>

2013 年 4 月 25 日

総て男性のみの執筆陣で構成された BL アンソロジー『男主 BL アンソロジー Galettes』が電子書籍としてブックウォーカーの電子書店「BOOK ☆ WALKER」より配信開始される。  
[http://bookwalker.in/ex/sp/dansh\\_galettes/](http://bookwalker.in/ex/sp/dansh_galettes/)  
執筆陣に BL 作品執筆実績は無い模様。

2013 年 4 月 25 日

腐女子のためと銘打たれたイラスト SNS ・「ripplex」開設される。  
<http://ripplex.net/>

2013 年 5 月 1 日

4 月 25 日に開設された腐女子用イラスト SNS ・「ripplex」、商標権の問題によりサイト名を「pictBland」に変更する。  
<http://pictbland.net/informations/detail/10>  
<http://pictbland.net/>

2013 年 5 月 23 日

講談社刊行『週刊少年マガジン』連載「我妻さんは俺のヨメ」作中において腐女子と自らを定義する主人公達と対立する女子グループの存在が描かれる。  
【2013 年 6 月 5 日発売号 / 25 号～2013 年 6 月 19 日発売号 / 27 号】  
その実態は歴史マニアな女子（歴女）と腐女子を混同した上、ネット上での在り様の一部のみをクローズアップしたもの。

2013 年 5 月 30 日

米イベント・YAOI-CON、2013 年度の開催は一旦休止し、2014 年度より再開すると発表。  
[http://www.bunkaextend.com/pick\\_090.html](http://www.bunkaextend.com/pick_090.html)  
<https://twitter.com/yaoicon/status/340208923606913025>

2013 年 6 月 8 日

と学会主催・日本トンデモ本大賞 2013 において  
ポストメディア編集部：編『お城で BL』（一迅社）が第22回トンデモ本大賞に。  
<http://www.ustream.tv/recorded/34005433#/recorded/34005433>  
<http://www.ustream.tv/recorded/34005433#/recorded/34008641>  
[http://www.cyzo.com/2013/06/post\\_13611.html](http://www.cyzo.com/2013/06/post_13611.html)  
[http://www.cyzo.com/2013/06/post\\_13611\\_2.html](http://www.cyzo.com/2013/06/post_13611_2.html)

2013 年 6 月 17 日

Amazon 経由で kindle 版【電子書籍】にて Yaoi-Con 2012 の招聘ゲスト・小笠原宇紀によるイベントレポートが刊行される。  
発行元は Digital Manga Publishing。  
<http://www.amazon.co.jp/gp/product/B00DGWQ8YQ>

2013 年 6 月 18 日

新紀元社よりかつくら（活字倶楽部）編集部：編『腐女子語事典』刊行。  
雑草社から刊行されていた『ぱふ』の活字メディア版別冊『活字倶楽部』もまた腐女子文化を支えた雑誌であった。その編集部による用語事典。  
専門用語事典と言うには少し物足りない表現があるが、それは書評誌故の配慮の産物であるかと考えられる。

2013 年 7 月 5 日

2011 年に二度に渡り地上波 TV にてアニメ放映されていた  
中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の  
スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の  
映画化が発表される。

<http://sekai-ichi.jp/>

2014 年全国ロードショーとの事。

2013 年 8 月 3 日

cyzo woman 掲載ネット記事

“ BL 短歌『共有結晶』インタビュー

Twitter 発「 BL 短歌」、萌えを詠む腐女子が語る「ルールに縛られない関係性」の快感”

[http://www.cyzowoman.com/2013/08/post\\_9336.html](http://www.cyzowoman.com/2013/08/post_9336.html)

BL 短歌の来歴、展望について。適度な距離感のある記事。

2013 年 9 月 26 日

株式会社パピレス運営の電子書籍投稿サイト「 upppi (ウッピー)」開催

「 upppi ボーイズラブ小説コンテスト」大賞受賞作、有償販売開始。

「その言葉を何度でも」 <http://www.papy.co.jp/act/books/1-234234/>

2013 年 9 月 26 日

歌人・榎野浩一が Twitter 上でふと思いついて BL 短歌連作を始め、

NAVER まとめにて公表する。

<http://matome.naver.jp/odai/2138026155965285601>

この一連の連作は榎野の認識では Twitter で先行拡散していた #BL短歌 タグによる作品群とは別個の存在であったとの事。

2013 年 9 月 29 日

東池袋のコミックカフェ・ cafe801 【カフェハチマルイチ】を会場に

『やおいこん #01』が開催される。

<http://gender-sf.org/yaoicon/yaoicon01.html>

主催団体も明言しているが米国の『 YA01-CON 』とは別組織。関連も無い。

これは 1992 年 8 月開催の日本 SF 大会【大会毎愛称： HAMACON 】の自主企画・

『やおいパネルディスカッション』の現在までの流れの上にあるもの。

記録：[http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi\\_pd.htm](http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi_pd.htm)

【ミリオン出版『 DEEP 』創刊号（ 1993 年 9 月）にも掲載有】

『やおいパネルディスカッション』は 1992 年以後、 SF 大会の自主企画として

毎回開催されていた。『やおいこん #01』はそれが独立企画化されたもの。

2013 年 12 月 1 日に『やおいこん #02』・ 2014 年 2 月 23 日に

『やおいこん #03』が初回と同じく cafe801 にて開催される。

<http://gender-sf.org/yaoicon/>

2013 年 9 月 30 日

中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の

スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の

映画版公式サイトが公開される。

<http://sekai-ichi-movie.jp/>

2013 年 10 月 15 日

『黒子のバスケ』関連脅迫事件に新展開。

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1310/16/news038.html>

<http://www.asahi.com/national/update/1015/TKY201310150285.html>

報道の限りでは、関係者とみられる怪人 801 面相を名乗る人物が事前にネット上で  
声明文を残さずにグリコ森永事件を模した犯行に及んだ、とみられる。

2013 年 10 月 31 日

美少年出版社よりアダルトビデオ作品『 BL 美少年 華神×岡田敦斗』発売される。

監督：二村ヒトシ。 <http://bishonen-av.com/products/b41.html>

後日二村ヒトシ本人によって岡田育・金田淳子を交えた公開鼎談中で  
自作解説が展開された。 <https://cakes.mu/posts/5381?r=20140405m>

2013 年 11 月 3 日

中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の  
スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の  
映画版公開時期が 2014 年春と正式アナウンスされる。

<http://sekai-ichi-movie.jp/>

また、告知動画が公開される。

<http://www.youtube.com/watch?v=Loc40Ih-XPQ>

2013 年 11 月 4 日

『黒子のバスケ』関連脅迫事件、この日を犯行実行日と設定し、  
脅迫状を各所に送りつける事件に発展。

最悪の事態には陥らなかったが、対応部署の調査は継続している模様。

2013 年 11 月 26 日

女性向け電子書籍配信サイト・ラブコミ <http://www.lovecomi.com/> が広報の一環として  
腐男子が配信する応援ラジオと言う体裁でブログ経由で MP3 形式のウェブラジオを配信開始。

<http://lovecomilove.blog108.fc2.com/>

<http://lovecomilove.blog108.fc2.com/blog-category-16.html>

タイトルは『ラブラジオ』（『ラブらじ』とも表記）。

12 月 5 日に第 1 回【実質第 2 回】を配信。以降不定期継続し、2014 年 9 月 11 日・  
23 回の配信をもって終了した。

開始時出演：平本雄・深川裕樹・J\* 腐男子

2013 年 12 月 10 日

リブレ出版よりヤマシタトモコ新刊「さんかく窓の外側は夜」【2014 年 2 月 10 日刊行】  
男子限定コミックス先行読書会を 2014 年 1 月 31 日にリブレ出版本社にて行うとの

アナウンス有り。「新作コミックス先行読書会～今夜は生でヤマシタトモコ！～」

[https://www.libre-pub.co.jp/yamashita\\_world/danshi\\_ev/](https://www.libre-pub.co.jp/yamashita_world/danshi_ev/)

募集は 12 月 26 日 19 時まで。

ヤマシタトモコ本人出演の上、新刊にその場で直接サインを入れるとの事。

2013 年 12 月 15 日

『黒子のバスケ』関連脅迫事件について警察より容疑者逮捕との発表有り。

<http://www.asahi.com/articles/TKY201312150167.html>

以降当局による全容解明作業に入る。単独犯であるとの伝聞。

2013 年 12 月 24 日

中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の  
スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の  
映画版封切り日が 2014 年 3 月 15 日と正式アナウンスされる。

また上映館についても案内が公開される。スケジュール公開はまだ。

<http://sekai-ichi-movie.jp/>

2013 年 12 月 25 日

電子書籍も取り扱う EC サイト・DMM.com が 18 禁を前提とした  
BL 作品取扱いページ・X-BL を開設。

関連報道：<http://hon.jp/news/1.0/0/5109/>

[http://www.dmm.co.jp/dc/book/feature/x\\_bl/](http://www.dmm.co.jp/dc/book/feature/x_bl/)

名称利用はリブレ出版と DMM 側合意によるものとの事。

なおリブレ出版 X-BL レーベルのサイトに特別な注記は無し。

<http://x-bl.jp/>

2013 年 12 月 26 日

女性専用ゲーム特化（モバイル特化）SNS “BLobby”、PC 版リリースを発表。

<http://blby.jp/>

PC 版からの新規会員登録は 2014 年初旬から可能になる予定との事。

2013 年 12 月 26 日

『黒子のバスケ』関連脅迫事件について逮捕された人物が起訴されたとの事。

<http://mainichi.jp/shimen/news/m20131227ddm041040128000c.html>

2013 年 12 月 26 日

プレスリリース採録。

東京・秋葉原にて同年 11 月 11 日に開店したインターネットカフェ・

和 style.cafe AKIBA (ナゴミスタイルカフェアキバ) が

秋葉原最大級と謳う BL コミックコーナー (BL 棚) を設置したとの事。

<http://nagomi-cafe.com/wp-content/uploads/ec815966ddd73145957602816e2e63c3.pdf>

2014 年段階で蔵書増殖中との由。

2013 年 12 月 28 日

リブレ出版の 18 禁 BL レーベル・X-BL よりアンソロジー『PINK GOLD 3』刊行。

<http://x-bl.jp/pinkgold3/>

2014 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 201 年版』女子項 (執筆者: 深澤真紀) にて「腐女子」が独立項目となる。マンガ項の「腐女子」解説文を詳細にした内容。2016 年版に至るまで (折々の進展を併せて書くが) 本文及び定義骨子の変化はみられない。

2014 年 1 月 5 日

ネット上記事: ダ・ヴィンチ電子ナビ『ネットで大ブームの BL 短歌って何?』

<http://ddnavi.com/news/178040/>

見出しに反して Twitter 上の動きに言及したのではなく、合同誌『共有結晶』

及び同誌 VOL.2 の内容から BL 短歌とは、とその本質を解析するという体裁の記事。

2014 年 1 月 11 日

東京新聞文化部の Twitter アカウントより告知。

<https://twitter.com/tokyobunkabu/status/421925347853369344>

特集記事「短歌月評」新担当者初回にて短歌の BL 読み・百合読みについて

扱ったとの旨。Twitter から拡散した #BL短歌 発の試みとの関係は不詳。

→ 後刻確認された原文 (1 月 11 日付夕刊掲載・中日新聞でも確認可能との由) に拠れば明言はされていないものの Twitter 上 #BL短歌 よりの玉突きである模様。

2014 年 1 月 19 日

山川純一・作『くそみそテクニク』を主題とした公式イベントが

秋葉原のコスプレカフェバーにて開催され、ニコニコ生放送で中継された。

<http://otakei.otakuma.net/archives/2014011510.html>

<http://live.nicovideo.jp/watch/lv165322235>

ゲスト参加した伊藤文学【元『薔薇族』編集長・刊行元社主】による

往時を振り返る生の証言は貴重なもの。

2014 年 1 月 21 日

ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画化決定に伴い

大洋図書管理による特設サイトが開設される。

[http://www.bs-garden.com/feature/movie\\_doshitemo/](http://www.bs-garden.com/feature/movie_doshitemo/)

\*\*\*

この情報公開に至るまでのぶどううり・くすこによるネット上の大雑把な記録は以下の通り。

\*\*\*

2014-1-18 ・ 20 時頃

中国版 Twitter 「新浪微博 (Sina weibo)」 <http://weibo.com/> のあるアカウントの発言にて雑誌から転載されたと思われる実写映画化情報を含む画像が 2 点公開される。

[http://ww1.sinaimg.cn/large/8848059c\\_jw1ecnv286gboj20sw18g7ev.jpg](http://ww1.sinaimg.cn/large/8848059c_jw1ecnv286gboj20sw18g7ev.jpg)

[http://ww4.sinaimg.cn/large/8848059c\\_jw1ecnv2c5e9uj20sn18gguk.jpg](http://ww4.sinaimg.cn/large/8848059c_jw1ecnv2c5e9uj20sn18gguk.jpg)

↓

2014-1-19 ・ 未明

Twitter のあるアカウントが新浪微博で公開された画像の内ポスターとも見て取れる画像を転載し、映画の情報を添えて発言した模様。

この発言が裏付けのない状態で拡散される。

後に映画の情報を含む画像が新浪微伝からそのまま引用されそちらも裏付けのないままに決定情報として拡散。

↓

2014-1-19 ・ 午前

各種まとめサイトが先の 2 点の画像及び Twitter の発言並びに 2 ちゃんねる 801 板のスレッド上の発言を加味してをまとめ、決定情報として更に Twitter を中心に拡散させる。主演二人の経歴も徐々に追加され拡散した。

【以下続】

【 2014 年 1 月 21 日項続】

↓

2014-1-20

腐女子用情報・作品レビューサイト『ちるちる』にて映画化情報がこの日発売された大洋図書刊行のアンソロジー形態雑誌『CRAFT vol.59』に掲載されたと報じられる。  
<http://www.chil-chil.net/compNewsDetail/k/blnews/no/4037/>  
記事キャプションとして提示された画像は微妙な差異【指などの映り込みがない等】から先行して拡散された新浪微博経由の画像とは別のものであろうと認識される。  
※『CRAFT vol.59』を確認した結果、「新浪微博（Sina weibo）」で流出した画像と掲載された情報ページとの合致がみられた。流出についての詳細は不明。

↓

2014-1-20

主演二人及び原作者並びに版元から映画化についての公式ツイートが流れる。  
[https://twitter.com/tgms\\_twinews/status/425090072291991552](https://twitter.com/tgms_twinews/status/425090072291991552)  
<https://twitter.com/kosk0313/status/425150672871247872>  
[https://twitter.com/bs\\_garden/status/425208091336916992](https://twitter.com/bs_garden/status/425208091336916992)  
[https://twitter.com/\\_yoneco\\_/status/425213144563081216](https://twitter.com/_yoneco_/status/425213144563081216)

2014 年 1 月 22 日

映画『どうしても触れたくない』公式サイト開設。独自ドメインによる運用。  
<http://doushitemo.com/>

2014 1 月 28 日

影木栄貴原作・蔵王大志作画のボーイズラブ作品『LOVE STAGE !!』【角川書店刊】TV アニメ公式サイト開設される。2014 年 年内放映との事。  
<http://lovestage-tv.jp/>  
ただし地上波であるや否や等の詳細は記されていない。

2014 年 1 月 31 日

リブレ出版刊行・ヤマシタトモコ新刊「さんかく窓の外側は夜」【2014 年 2 月 10 日刊行】18歳以上の男子限定コミックス先行読書会をリブレ出版本社にて開催予定。公募は既に 2013 年中に終了。  
「新作コミックス先行読書会～今夜は生でヤマシタトモコ！～」  
[https://www.libre-pub.co.jp/yamashita\\_world/danshi\\_ev/](https://www.libre-pub.co.jp/yamashita_world/danshi_ev/)  
ヤマシタトモコ当人出演の上、新刊にその場で直接サインを入れるとの事。

2014 年 1 月 31 日

映画『どうしても触れたくない』公式サイト更新。  
<http://doushitemo.com/>  
公開予定時期と主演二人のプロフィール公開。

2014 年 2 月 1 日

ごとうしのぶ著の BL 小説【タクミくんシリーズ】が『Station』刊行をもって完結。  
<http://www.kadokawa.co.jp/ruby/cat57/>  
角川書店ルビー文庫公式サイトに特設ページが設けられる。  
シリーズ初期の刊行分は当初角川書店スニーカー文庫のラインナップに数えられていたが 1992 年 12 月のルビー文庫独立創刊を受けてそちらに移行され、カバーデザインも若干変更された。【フォントの変更など】

2014 年 2 月 4 日

ニコニコ生放送の公式番組として 2007 年以降断続的に制作された『タクミくんシリーズ』【ごとうしのぶ原作】5 作の内「そして春風にささやいて」を除く 4 作が 4 夜連続で配信される。原作小説完結を受けての企画。  
『虹色の硝子』 <http://live.nicovideo.jp/gate/lv166819260>  
『美貌のディテール』 <http://live.nicovideo.jp/gate/lv167177124>  
『Pure ～ピュア～』 <http://live.nicovideo.jp/gate/lv167177243>  
『あの、晴れた青空』 <http://live.nicovideo.jp/watch/lv167177452>  
ニコニコ静画【電子メディア配信サイト】に於いても原作小説電子書籍配信フェアが開催された。

2014年2月7日

ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画・大洋図書管理による特設サイトに於いてメイキング DVD 発売予定の一報が掲載される。4月16日、ポニーキャニオンより。

[http://www.bs-garden.com/feature/movie\\_doshitemo/](http://www.bs-garden.com/feature/movie_doshitemo/)

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00I9N7Q1G/>

なお、独自ドメイン映画公式サイトではこの情報は掲載されていない。

【後日掲載された】

2014年3月15日

中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】のスピニアウト小説

『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の映画版封切日。

角川シネマ新宿及びシネマサンシャイン池袋にて主演声優二人（堀内賢雄・蒼月昇）及び主題歌歌唱・喜多修平の舞台挨拶が行われる

<http://www.animate.tv/news/details.php?id=1395128511>

<http://sekai-ichi-movie.jp/>

2014年3月16日

2013年9月より2014年5月公開を目指し稼働していた Android 対応

携帯電話ゲームアプリ『魔女っ子少年マジカルピース』制作チームが

アプリをより完成形に近づける為にボイス付に進化させる事を画策。

その資金調達としてクラウドファンディングサービスの一つ、CAMPFIRE を用い

2月27日開始以降4月1日までに計画実行資金として100万円の寄付を

集める事を目標とした。

<http://rosemaryhouse.com/mp/>

[https://www.youtube.com/watch?v=IH3\\_wMakVps](https://www.youtube.com/watch?v=IH3_wMakVps)

<http://camp-fire.jp/projects/view/955>

[https://twitter.com/magical\\_piece](https://twitter.com/magical_piece)

この日はその期限の半ばで寄付金目標額を達成した日である。

[https://twitter.com/magical\\_piece/status/445219138999296000](https://twitter.com/magical_piece/status/445219138999296000)

なお『魔女っ子少年マジカルピース』はいわゆる男の娘ものではなく、

魔女っ子に返信する能力を持った青年少年及び壮年が織り成す

ボーイズラブ展開のゲームである模様。

2014年3月17日

2009年4月4日に開設された腐男子ポータルサイト“腐男子.net”が、

<http://www.fudanshi.net/>

サーバの関係で避難所に一時移転した模様。データはほぼ保持されている様子。

腐男子.NET 避難所 :: 痞客邦 PIXNET :: <http://fudanshi.pixnet.net/blog>

更新は分散随所にて継続中か？

2014年3月18日

ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画の

上映情報が公開される

[http://www.bs-garden.com/feature/movie\\_doshitemo/](http://www.bs-garden.com/feature/movie_doshitemo/)

<http://doshitemo.com/>

5月31日より渋谷シアター・イメージフォーラムにて21時以降上映の

レイトショー扱いであるとの事。

2014年3月20日

2014年1月28日に開設されていた

影木栄貴原作・蔵王大志作画のボーイズラブ作品『LOVE STAGE !!』【角川書店刊】

TVアニメ公式サイト、本格始動開始。2014年7月にTVアニメとして放映予定との事。

<http://lovestage-tv.jp/>

但し2014年5月6日段階では放映情報は一切なし。

2014年4月1日

集英社コバルト文庫より刊行の桑原水菜作の小説『炎の蜃気楼（ミラージュ）』

シリーズの一篇『夜啼鳥ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』が秋に舞台化されるとの

一報が集英社管理の公式サイト・WEBコバルトにて公開される。

<http://cobalt.shueisha.co.jp/news/#mirageStage>

書籍情報 <http://www.amazon.co.jp/dp/408601775X>



2014 年 4 月 11 日

集英社コバルト文庫より刊行の桑原水菜作の小説『炎の蜃気楼（ミラージュ）』シリーズの一篇『夜啼鳥ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』の情報詳細が原作者・桑原水菜の公式サイトにて発信される。  
<http://mizuna.info/view/899>

2014 年 4 月 18 日

ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画、東京での上映に先立ち、5 月 25 日に大阪にてワールドプレミア上映会を行うとの情報が公開される。  
[http://www.bs-garden.com/feature/movie\\_doshitemo/](http://www.bs-garden.com/feature/movie_doshitemo/)  
<http://doushitemo.com/>

2014 年 4 月 24 日

集英社管理の公式サイト・WEB コバルトにて桑原水菜作の小説『炎の蜃気楼（ミラージュ）』シリーズの一篇『夜啼鳥ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』舞台化情報及び舞台公式ブログの開設情報が公開される。  
<http://cobalt.shueisha.co.jp/news/#mirageStageBlog>  
[http://blog.livedoor.jp/mirage\\_stage2014/](http://blog.livedoor.jp/mirage_stage2014/)

2014 年 5 月 13 日

ふらんす堂刊行萌詩アンソロジー「詩の向こうで、僕らはそっと手をつなぐ。」書店向けファックス内容が版元ドットコムにて公開。  
<http://www.hanmoto.com/news/2014/05/13/furansudof-21/>  
詩をボーイズラブの視点で読み解いて味わうと言う試み。  
版元のふらんす堂が公開している初版日付は 6 月 10 日。  
<http://furansudo.ocnk.net/product/2017>

2014 年 5 月 17 日

米イベント・YAOI-CON、告知用メールマガジンにて 2014 年度招聘ゲストを発表。  
（後サイトでも告知）  
漫画家の高久尚子に決定したとの事。  
<http://yaoicon.com/>

2014 年 5 月 23 日

『炎の蜃気楼（ミラージュ）』【集英社コバルト文庫刊】シリーズの一篇『夜啼鳥ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』舞台版情報詳細【キャスト含む】が舞台公式ブログより発信される。  
[http://blog.livedoor.jp/mirage\\_stage2014/archives/1003320681.html](http://blog.livedoor.jp/mirage_stage2014/archives/1003320681.html)  
翌 24 日には原作者・桑原水菜の公式サイトにて発信される。  
<http://mizuna.info/view/903>  
トライフルエンターテインメントプロデュース  
公演日程：2014 年 9 月 17 日(水)～9 月 23 日(火・祝)  
劇場：シアターサンモール(新宿御苑前)

2014 年 5 月 26 日

ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画が大阪でも上映されると出演者所属事務所の Twitter で情報公開有。  
[https://twitter.com/sos\\_ent\\_news/statuses/470776059885928450](https://twitter.com/sos_ent_news/statuses/470776059885928450)  
後に映画公式サイト <http://doushitemo.com/> でも明言。  
6 月 21 日よりシネ・ヌーヴォ X にて。時間は未定の模様。

2014 年 5 月 26 日

角川書店より中村春菊作『世界一初恋』作中登場の少女漫画誌「エメラルド」を実際に創刊するとの発表有り。8 月末発売予定。  
<https://twitter.com/emeraldmarukawa/status/470754132505030658>  
実質は既刊『CIEL』増刊号としての創刊。  
以降公式 Twitter より続報多数。

2014 年 5 月 28 日

影木栄貴原作・蔵王大志作画のボーイズラブ作品『LOVE STAGE !!』【角川書店刊】TV アニメ公式サイトにて詳細な放映開始予定発表。  
最速局では 2014 年 7 月 9 日に TV 放映開始との事。  
<http://lovestage-tv.jp/>

2014 年 5 月 28 日  
2014 年 5 月公開を目指し稼働していた Android 対応携帯電話ゲームアプリ『魔女っ子少年マジカルピース』、公開を 7 月に延期と発表。  
<http://rosemaryhouse.com/mp/info.html>

2014 年 5 月 30 日  
角川書店の新創刊誌『エメラルド』公式サイト公開。  
<http://www.kadokawa.co.jp/emerald/>  
先行して 29 日に『劇場版 世界一初恋』メディア発売と併せた雑誌 PR 動画を公開。  
<https://www.youtube.com/watch?v=YA0VcJrBXxs>

2014 年 5 月 30 日  
中村春菊作『Hybrid Child』アニメ公式サイトおよび広報 Twitter 始動。  
<http://www.hybridchild.jp/>  
[https://twitter.com/hybridchild\\_PR](https://twitter.com/hybridchild_PR)  
OVA か TV 放映かの明言なし。

2014 年 5 月 31 日  
東京・東池袋のコミックカフェ『CAFE801 [カフェハチマルイチ]』にて  
ふらんす堂刊行萌詩アンソロジー「詩の向こうで、僕らはそっと手をつなぐ。」  
見本誌陳列及び取り扱い開始。  
<http://cafe801.org/>

2014 年 6 月 3 日  
ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画大阪上映の  
時間帯詳細が公表される。6 月 21 日よりシネ・ヌーヴォ X にて。  
<http://www.cinenouveau.com/sakuhin/dousitemo.html>

2014 年 6 月 9 日  
ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画東京上映の  
時間帯追増が公表される。  
<http://www.imageforum.co.jp/theatre/>

2014 年 6 月 9 日  
講談社 KC デラックスより須久ねるこ「まばたきのあいだ」が刊行される。  
スマートフォン対応無料マンガ配信アプリ・マンガボックス初出の BL 作品。  
1 月より連載開始されていた。10 月 9 日発売の第 2 巻をもってシリーズ完結。

2014 年 6 月 13 日  
中村春菊作『Hybrid Child』、OVA 全 4 巻であると詳細が出る。  
<http://www.hybridchild.jp/>  
[https://twitter.com/hybridchild\\_PR](https://twitter.com/hybridchild_PR)  
OVA 第 1 巻は 10 月 29 日発売予定との事。

2014 年 6 月 13 日  
ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画版元特設サイトにて  
版元発行雑誌に掲載された現場レポート漫画掲載開始。  
[http://www.bs-garden.com/feature/movie\\_dousitemo/](http://www.bs-garden.com/feature/movie_dousitemo/)  
『ihr HertZ』5 月号掲載：千葉リョウコ作  
『CRAFT』vol.60 掲載：秋葉東子作  
レポ自体には原作のヨネダコウも参加。

2014 年 6 月 17 日  
読賣新聞朝刊文化面 [31ページ] 『詩月評』コーナーにて  
ふらんす堂刊行萌詩アンソロジー「詩の向こうで、僕らはそっと手をつなぐ。」が  
評される。味わい方の視点も含め好意的な内容。

2014 年 6 月 23 日  
ヨネダコウ作『どうしても触れたくない』【大洋図書刊】実写映画公式サイトにて  
東京・大阪上映の期間追増が公表され、8 月に名古屋と京都でも上映されるとの一報。  
<http://doushitemo.com/news.html>  
<http://www.cinemaskhole.co.jp/cinema/html/>  
<http://risseicinema.com/movies/5100>

2014 年 7 月

柊のぞむによるコミック作品・『どっちもどっち』【海王社】実写化との発表が制作会社及び版元の Twitter にて発表される。

<http://www.amazon.co.jp/dp/4796401946/>

<https://twitter.com/LovePlace201306/status/486302665714855937>

[https://twitter.com/GUSH\\_info/status/487411755853705216](https://twitter.com/GUSH_info/status/487411755853705216)

以降の告知は制作会社の Twitter ( @LovePlace201306 ) から随時なされる。

10 月 25 日に DVD として発売される他、動画配信も予定されている模様。

<http://www.amazon.co.jp/dp/BOONWATW7M/>

予告動画 → <https://www.youtube.com/watch?v=4-qMplThAic>

2014 年 7 月 28 日

企業イベーターである赤ブーブー通信社系列の青ブーブー通信社が公式 Twitter 上で男の娘オンリーイベント「ちむちむワールド」開催を企画していると告知。

<https://twitter.com/AOB00JP/status/493756286412918784>

同日公式ページも立ち上げられた。→ <http://www.aoboo.jp/p0043.html>

開催予定日は 2015 年 6 月 21 日。インテックス大阪にて。

出展については「ショタ・女装少年・男の娘」の要素が一つでもあれば良いとの事。

企業イベーターがショタ関連ジャンルオンリーを開催するのは恐らく初めての事。

2016 年 7 月 3 日には東京開催【3 回目:みっちむめ】も果たした。

2014 年 7 月 29 日

マイナビブックスより

『東京 3 大聖地攻略ガイド 2014 秋葉原・中野ブロードウェイ・池袋乙女ロード』刊行。

<https://book.mynavi.jp/ec/products/detail/id=27469>

おたくの聖地に点在する主要店舗や宿泊施設等を独自の視点で探訪取材し掲載した一冊。

2014 年 8 月

豊島区文化商工部文化観光課とアニメイトグループ株式会社リンクによって

観光パンフレット「池袋乙女マップ 豊島区お散歩シリーズ 乙女編」が発行される。

豊島区観光協会も協力者として名を連ねる。

4 万部発行との発表あり。公的刊行物上での「乙女ロード」呼称活用例。

紙媒体以外でも区役所公式サイトにて PDF を配布。

2015 年 10 月には第 2 版を発行し、多言語展開もしている。

2014 年 8 月 10 日

かねてより完成を目指していた Android 対応携帯電話ゲームアプリ

『魔女っ子少年マジカルピース』、Google Play 経由で公開される。

<http://rosemaryhouse.com/mp/>

[https://twitter.com/magical\\_piece/statuses/498454381990121473](https://twitter.com/magical_piece/statuses/498454381990121473)

<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.rosemaryhouse.mp&hl=ja>

なお一部シナリオ等は公開後も並行して開発中。

2014 年 8 月 30 日

角川書店の新創刊誌『エメラルド』発売。

<http://www.kadokawa.co.jp/emerald/>

ネット随所からの情報から察するところ、9 月 2 日の段階でほぼ完売状態である事が窺える。

2014 年 9 月 5 日

角川書店の新創刊誌『エメラルド』重版決定。公式より告知あり。

<http://www.kadokawa.co.jp/emerald/news/notice/post-3.php>

<https://twitter.com/emeralddmarukawa/status/507695366649556992>

異例の雑誌重版であるとの事。

2014 年 9 月 8 日

愛媛 LGBT 映画祭公式 Twitter 上にてヨネダコウ作『どうしても触れたくない』を

第 4 回開催時 ( 12 月 13 日 ~ 19 日 ) に上映すると発表。

<https://twitter.com/ehimeLGBTfilm/statuses/508924925696946176>

<http://rainbowpride-ehime.org/Site/ehimeLGBTmoviefes4.html>

2014 年 9 月 11 日

女性向け電子書籍配信サイト・ラブコミ <http://www.lovecomi.com/> が広報の一環として

2013 年 11 月より配信していたブログ経由・MP3 形式のウェブラジオ『ラブらじ』。

<http://lovecomilove.blog108.fc2.com/>

23 回目の配信にて最終回を迎える。

2014 年 9 月 12 日

2013 年 2 月 22 日、メディアファクトリーより創刊された  
WEB 小説マガジン『fleur』[フルール]より COMIC フルールが新規創刊されると  
フルール編集部公式及びCOMIC フルール公式よりツイート。  
<https://twitter.com/MFfleurlabel/statuses/510318721399668736>  
<https://twitter.com/MFfleurcomic>  
<https://twitter.com/MFfleurcomic/status/510278532514078720>  
WEB 連載 BL コミック。完全無料を謳う。10 月 15 日創刊。

2014 年 9 月 12 日

米国サンフランシスコにて現地時間 9 月 12 日から 9 月 14 日にかけて、  
Yaoi 特化イベント YAOI-CON 2014 が開催された。  
本邦からは高久尚子（漫画家）・麗華（コスプレイヤー）が招聘された。  
<http://yaoicon.com/>  
[https://twitter.com/shoko\\_takaku](https://twitter.com/shoko_takaku)  
<https://twitter.com/reika2011>

2014 年 9 月 17 日

『炎の蜃気楼（ミラージュ）』【集英社コバルト文庫刊】シリーズの一篇  
『夜啼鳥ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』舞台公演開幕。  
トライフルエンターテインメントプロデュースにより23日まで上演。  
劇場：シアターサンモール（新宿御苑前）

2014 年 9 月 29 日

男女ロマンス小説及びそのコミカライズを主な発行物とする株式会社ハーレクインが  
自社サイトにてゲイ BL 小説用レーベル『ハーレクインラブシック』創刊を発表。  
<http://www.harlequin.co.jp/>  
10 月 25 日創刊との告知あり。海外ゲイ小説を BL として翻訳する他、  
本邦 BL （ JUNE も含まれると思われる）古典作品の復刊を眼目とする。

2014 年 10 月 1 日

米イベント・ YAOI-CON 、 Twitter 及びサイトにて 2015 年開催時期を発表。  
<http://yaoicon.com/>  
<https://twitter.com/yaoicon/status/517345016335699968>  
現地時間 2015 年 9 月 18 日から 20 日にかけて開催との事。  
暫定トップ画像は奥山ぶく「カラメル」英訳版【 Digital Manga Publishing 刊】表紙より。

2014 年 10 月 1 日

電子書籍も取り扱う EC サイト・ DMM.com が 女子全般向けのメディア配信ポータルサイト  
・ JOSSY by DMM を開設。スマートフォン限定サイト。  
関連報道：<http://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000050.000002581.html>  
<http://www.dmm.com/top/jossy/>  
<http://jossy.dmm.com>  
成人向けBL取扱いページ・ X-BL は別ルートでそのまま継続。  
[http://www.dmm.co.jp/dc/book/feature/x\\_bl/](http://www.dmm.co.jp/dc/book/feature/x_bl/)

2014 年 10 月 3 日

腐女子専用ポータルサイト・ “腐女子 .JP ” の経営母体、トレジャーメディア株式会社より  
株式会社ビジュアルワークス <http://www.visualworks.co.jp/> に移管。  
<http://fujyoshi.jp/>  
株式会社ビジュアルワークスは 2012 年 3 月 に開設された女性向けゲーム特化 SNS ・  
“ B Lobby ” の経営母体でもある。 <http://blby.jp/>  
この移管により “腐女子 .JP ” と “ B Lobby ” の連携が開始された。  
[https://twitter.com/fujyoshi\\_jp/status/517974986938535936](https://twitter.com/fujyoshi_jp/status/517974986938535936)

2014 年 10 月 4 日

電子書籍配信サイト・ラブコミ .com からボイスドラマ『 BL48 手』リリース。  
<http://lovecomilove.blog108.fc2.com/blog-entry-1236.html>  
リリースされた中の一編 → <http://www.lovecomi.com/Items/view/120260000176239>  
2011 年 2 月に泰文堂より発行の秀香穂里・全編本文担当：体位解説集（いわゆる 48 手）を  
主題とした短編集の音声媒体化。 Brilliant Labyrinth 制作。  
原著 → <http://www.amazon.co.jp/dp/4803002339/>  
短編集である事を逆手にとり、本編＋キャストトークの形式で一編ずつ独立配信。  
ネットを舞台にして活動する新進声優を主に起用。  
2014 年 12 月現在もリリース継続中。

2014年10月15日

美術出版社刊行の美術専門雑誌『美術手帖』2014年12月号【11月17日刊行】にてボーイズラブ特集を組む旨を同誌編集部 Twitter から告知。  
<https://twitter.com/BIJUTSUTECHO/status/522155314368356353>

2014年10月15日

メディアファクトリーより創刊されたWEB小説マガジン『fleur』[フルール]より派生のCOMICフルール、創刊。  
<https://twitter.com/MFfleurcomic/status/522227880814596096>  
[http://mf-fleur.jp/comic\\_top/](http://mf-fleur.jp/comic_top/)  
完全無料を謳うWEB連載BLコミック誌。

2014年10月15日

去る8月10日にGoogle Play経由で公開されたAndroid対応携帯電話ゲームアプリ『魔女っ子少年マジカルピース』、シナリオ最終章を公開。  
<http://rosemaryhouse.com/mp/>  
[https://twitter.com/magical\\_piece/status/522173682542592000](https://twitter.com/magical_piece/status/522173682542592000)  
<https://play.google.com/store/apps/details?id=com.rosemaryhouse.mp&hl=ja>

2014年10月17日

美術出版社刊行の美術専門雑誌『美術手帖』公式サイトにて2014年12月号【11月17日刊行】にてボーイズラブ特集掲載と予告。  
<http://www.bijutsu.co.jp/bt/>

2014年10月17日

株式会社ハーレクインにより設立されたMM×BL小説用レーベル『ハーレクインラブシック』、公式サイト公開。  
<http://rabusikku.com/>

2014年10月24日

新條まゆ「教師の純情 生徒の欲望」第1巻刊行【集英社デジタルマーガレットコミックス】。集英社管理のマンガ配信アプリ・マーガレットBOOKストア！内の無料配信コーナー・マーガレットchannelにて2013年12月より不定期連載されていた作品の単行本化。同コーナー内唯一のBL作品と言う扱い。発行時点ではBL特化レーベルなし。かつて同社より紙媒体で刊行された尾崎南『BRONZE』Special Edition【加筆修正版】も同コーナーで配信されているがこちらは一般作品扱いになっている。

2014年10月25日

株式会社ハーレクインにより設立されたMM×BL小説用レーベル『ハーレクインラブシック』、紙媒体書籍創刊。

創刊ラインナップ：

「ルームメイト」雪代鞠絵 / 超訳、中村明日美子 / 絵、ラナ・マクレガー / 著

「蘭陵王」山藍紫姫子 / 著、座裏屋蘭丸 / 絵

<http://rabusikku.com/>

また、既に別ルート電子書籍で発表されていたゲイロマンス「ライド・ガイ・ライド」をハーレクインラブシックレーベルからの配信に変更。

2014年11月2日

秋の褒章受章者一覧発表される。  
漫画家・竹宮恵子が紫綬褒章を受ける事となる。  
発令は3日付。

2014年11月5日

多摩美術大学有志が2015年開催の多摩美術大学・芸術祭【文化祭】に同大学を舞台に設定したオリジナルBLアンソロジーを制作し出品すると画策。企画用Twitterを立ち上げる。  
→ TAMABL (タマブル) [https://twitter.com/tamabl\\_](https://twitter.com/tamabl_)  
告知アカウントからは多摩美非公式の学生企画である旨を明言。  
[https://twitter.com/tamabl\\_/status/530909551021670401](https://twitter.com/tamabl_/status/530909551021670401)

2014 年 11 月 17 日

『美術手帖』【美術出版社刊】、2014 年 12 月号において  
特集「ボーイズラブ “関係性” の表現をほどく」を組む。8 ~ 151 ページ（広告含む）。

\*\*\*\*

Editor's note / 岩淵貞哉【編集長】

特集表紙（見開き）

描き下ろしイラスト：

ヨネダコウ・宝井理人・えすとえむ・岡田屋鉄蔵・トウテムポール・雲田はるこ・腰乃

\*

10人のマンガ家が語る！ボーイズラブとマンガ表現【前半】：

雲田はるこ【聞き手：ヤマダトモコ】・ヨネダコウ【聞き手：川原和子】・

よしながふみ【聞き手：松井みどり】・中村明日美子【聞き手：千田有紀】・

\*

イラストポスター：中村明日美子

描き下ろしマンガ：中村明日美子「ボーイズラブ」

\*

座談会：金田淳子・福田里香・山本文子「熱きボーイズラブの表現を語る！」

\*

【コラム】ボーイズラブの歴史 / 金田淳子

\*

10人のマンガ家が語る！ボーイズラブとマンガ表現【後半】：

こだか和麻【聞き手：山本文子】・宝井理仁【聞き手：平松梨沙】・

鳥人ヒロミ【聞き手：千田有紀】・トウテムポール【聞き手：櫻井周子】・

はらだ【聞き手：金田淳子】・田亀源五郎【聞き手：エスムラルダ】

\*

【コラム】ボーイズラブ世界一周 / 長池一美〈世界各地での BL の現状レポート〉

【コラム】必ず読みたい BL マンガ 20 / 金田淳子

\*

エッセイ〔論考〕：ボーイズラブから考える

松井みどり「少年の器、少女の愛— 24 年組と BL マンガの交差点—」

暮沢剛巳「趣味の共同体の外側で— BL が苦手な男の独り言—」

泉信行「恋の心のシミュレート—同 / 異性をめぐるキャラクターの表現—」

\*\*\*\*

【以上特集内容は目次を参照しつつ本文と順を同じく表記】

2014 年 11 月 17 日

株式会社メディアソフトより 12 月 19 日に創刊されるオリジナル BL レーベル・  
シャルルコミックス編集部 Twitter が立ち上がる。

[https://twitter.com/Charles\\_Comics](https://twitter.com/Charles_Comics)

メディアソフト社では先立つ事 2013 年 11 月に二次創作 BL レーベル・  
フィリップコミックスを立ち上げていた。

同編集部 Twitter → <https://twitter.com/PhilippeComics>

公式サイトは 2014 年 8 月からの運用 → <http://www.media-soft.jp/>

2014 年 11 月 24 日

BL 短歌合同誌『共有結晶』VOL.3 刊行される。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00VQ9BPWG/>

<https://www.c-queen.net/i/2081000001/>

『小説 JUNE』投稿コーナー「黄昏詩華館」に関わった

歌人・藤原龍一郎インタビュー所収。

2014 年 12 月 1 日

あべ美幸原作『八犬伝—東方八犬異聞—』がミュージカル化されると  
舞台制作会社及び掲載誌公式 Twitter にて発表有り。

<https://twitter.com/emeraldmarukawa/status/539274851878318080>

[https://twitter.com/clie\\_seisaku/status/539237887561052160](https://twitter.com/clie_seisaku/status/539237887561052160)

公式サイトも公開された。→ <http://www.clie.asia/hakken-den/>

2014 年 1 月 1 日

『現代用語の基礎知識 201 年版』女子項（執筆者：深澤真紀）にて「男の娘」が  
独立項目となる。創作上の存在に対する言及ではなく、生活様式の一つとして言及。

2016 年版でも継続。

2015 年 1 月 5 日

2014 年 10 月 15 日に創刊された COMIC フルールより紙媒体レーベル・フルールコミックスが創刊されると公式 Twitter より告知。  
<https://twitter.com/MFfleurcomic/status/552002739064930304>  
2 月 17 日創刊。毎月 17 日発行との事。発行元は株式会社 KADOKAWA。

2015 年 1 月 9 日

小学館よりゆうきまさみ『でいす×こみ』 1 巻刊行。2014 年 4 月より連載していた。  
<http://www.amazon.co.jp/dp/4091867200>  
妹の名義を借りて BL 作品で漫画家デビューのきっかけをつかんでしまった兄と兄の身代わりとして BL 作家として振る舞う状況に追い込まれた妹をめぐるコメディ。各挿話冒頭にゆうきまさみ自身によって描かれたBL作品の一部が挿入されている。

2015 年 1 月 14 日

DMM ゲームスより原作・キャラクターデザインをゲームメーカー・ニトロプラスが担当したオンラインゲーム『刀剣乱舞— ONLINE —』リリース。  
PC ブラウザのみ対応。 [http://www.dmm.com/netgame\\_s/tohken/](http://www.dmm.com/netgame_s/tohken/)  
開始後、1 月 20 日の時点で 3 基のサーバ（相模国・備後国・山城国）が収容人員上限に達してしまい、サーバを 2 基（大和国・美濃国）追加するも 2 月 1 日の時点で再度収容人員上限に到達した。  
なお公式からは 2 月 16 日の時点で 3 月中旬を目処にしたサーバ追加予定の告知がなされている。  
公式サイトからはゲーム内容については明言されていないがユーザーの受け止め方は様々である。  
その結果のひとつとしてコミックマーケット準備会による『刀剣乱舞』のジャンル区分を挙げる事ができよう。  
<https://twitter.com/comiketofficial/status/560371648549777409>  
<https://twitter.com/comiketofficial/status/560372221026119683>  
1 月 28 日の段階では「ゲーム（恋愛）」のジャンル補足としての扱いの模様。その他の動きとして、2 月 6 日に各種作品とのコラボを展開するアニメイトカフェの一環として刀剣乱舞カフェ開催との発表有り。  
[http://www.animate.co.jp/special/cafe/pc/nipponbashi/collabo\\_menu/tohken/](http://www.animate.co.jp/special/cafe/pc/nipponbashi/collabo_menu/tohken/)  
東京・秋葉原及び大阪・日本橋において 2 月 24 日より 5 月 6 日まで。事前予約抽選制。  
また各種同人オンリーイベント・公式グッズ作成などの早期からの拡散もあり。  
参照：<http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1501/23/news172.html>  
実際のプレイヤーからの情報拡散に加え情報伝播過程において発生した二次創作も情報拡散の推進力になったとの見方もあり。

2015 年 2 月 14 日

KADOKAWA / エンターブレインより沙嶋カタナ『咲くは江戸にもその素質』 1 巻刊行。  
NHN PlayArt 株式会社配信の無料オリジナルコミックアプリ・comico にて 2014 年 1 月 29 日より連載されていた作品の紙媒体化。  
（同年 11 月 26 日には独立アプリ化されていた。）  
曲亭馬琴（滝沢馬琴）作『南総里見八犬伝』にそう言う萌えを見出した少女達がいた、と言う設定から展開されるコメディ。

2015 年 2 月 27 日

KADOKAWAメディアファクトリーより二村ヒトシ・岡田育・金田淳子による『オトコのカラダはキモチいい』上梓。 <https://www.amazon.co.jp/dp/4040674200>  
トークイベントの文字起こしに追補した二次元の手法で三次元を語る試み。

2015 年 3 月 10 日

総合映画情報サイト・映画.com 配信ニュース（19:20 配信）によると <http://eiga.com/news/20150310/17/>  
宝井理人・作画の BL コミック『セブンデイズ』（原作：橘紅緒）が実写映画化され、2015 年初夏に公開される運びであるとの事。  
MONDAY→THURSDAY <http://www.amazon.co.jp/dp/4813050859/>  
FRIDAY→SUNDAY <http://www.amazon.co.jp/dp/4813051936/>  
記事中のコメントからは現時点で既に撮影が終わっているのではないかと言う状況が窺える。  
なお、この時点でコミック単行本の版元である大洋図書からのアクションはない。  
↓  
翌 11 日に日付が変わった時点で映画公式 Twitter アカウントが立ち上げられ、情報発信拠点と位置付けられる。 → [https://twitter.com/movie\\_sevendays](https://twitter.com/movie_sevendays)

2015 年 3 月 10 日

オンラインゲーム『刀剣乱舞』に新サーバ「備中国」「豊後国」が追加された。  
両サーバーとも翌11日には収容人員上限を迎えた。

2015 年 3 月 14 日

中村明日美子原作『同級生』アニメ化に関し、公式サイトと公式ツイッターが  
日付変更寸前公開された。

<http://www.dou-kyu-sei.com/> [https://twitter.com/doukyusei\\_anime](https://twitter.com/doukyusei_anime)

同時刻の前後に深夜放映のアニメ番組内で CM が流れた他、You Tube にて  
同内容とみられる動画が公式サイトより公開されたと思われる。

<https://www.youtube.com/watch?v=dJpNjdpU0yY>

後日劇場公開作品であると公表あり。

2015 年 10 月 16 日、2016 年 2 月 20 日公開決定との告知あり。

2015 年 3 月 17 日

米国サンフランシスコにて 9 月に開催される YAOI-CON 2015 <http://yaoicon.com/> の  
本邦からの招聘ゲスト一人目が作家・コスプレイヤーの旭まあさであると公表される。

<http://yaoiconofficial.tumblr.com/post/113876223373/first-industry-guest-for-yaoicon-2015-we-cant>

2015 年 3 月 19 日

[https://twitter.com/movie\\_sevendays/status/578393987830059010](https://twitter.com/movie_sevendays/status/578393987830059010)

宝井理人・作画の BL コミック『セブンデイズ』（原作：橘紅緒）実写映画  
公式 Twitter アカウントより 4 月末に完成披露上映イベント開催の旨  
告知される。（於大阪：26 日・於東京：29 日）

このイベントで上映されるのは前半部分である『MONDAY → THURSDAY』  
のみとの事。

以降もメイキング DVD 発売情報

[https://twitter.com/movie\\_sevendays/status/578888590706376704](https://twitter.com/movie_sevendays/status/578888590706376704)

[https://twitter.com/movie\\_sevendays/status/580330036277854208](https://twitter.com/movie_sevendays/status/580330036277854208)

映画公開日公表

[https://twitter.com/movie\\_sevendays/status/581382906636947456](https://twitter.com/movie_sevendays/status/581382906636947456)

チラシ情報公開

[https://twitter.com/movie\\_sevendays/status/581383950456610816](https://twitter.com/movie_sevendays/status/581383950456610816)

など、積極的な情報公開が続いている。

2015 年 3 月 28 日

米国サンフランシスコにて 9 月に開催される YAOI-CON 2015 <http://yaoicon.com/> の  
本邦からの招聘漫画家ゲストが立野真琴であると公表される。

<http://yaoiconofficial.tumblr.com/post/114861307103/yaoicon-2015-guest-of-honor-will-be-makoto-tateno>

2015 年 3 月 31 日

2006 年 4 月 17 日、東池袋にて開店の男装喫茶 “80+1 ( Eighty Plus One ) ”、閉店。

<http://80plus1.net/> <http://com.nicovideo.jp/community/co1138737>

<https://twitter.com/eightyplusone>

ボーイズラブがコンセプトであるとは明言せず。

一部時間帯を除き男子禁制の運営方針。

2015 年 4 月 1 日

年齢制限式イラスト投稿閲覧 SNS ・ニジエ <http://nijie.info/> より

女性向け年齢制限式イラスト投稿閲覧 SNS ・ホルネ <http://horne.red/> リリースされる。

[https://twitter.com/yogaru\\_horne](https://twitter.com/yogaru_horne)

運営母体は株式会社ニジエ <http://nijie.co.jp/>

[http://horne.red/lp.php?page=2015\\_horne\\_campaign](http://horne.red/lp.php?page=2015_horne_campaign)

洒落の効いた開設キャンペーンを展開。

2015 年 4 月 25 日

秀良子・作「宇田川町で待っててよ」実写映画化・今夏公開が発表される。

<http://www.cinra.net/news/20150425-udagawacho>

<http://www.animate.tv/news/details.php?id=1429772865>

公式サイト → <http://udagawa-movie.com/>

7 月 25 日公開の運び。



2015 年 4 月 30 日

角川書店発行季刊誌『CIEL 27 年 6 月号 増刊 エメラルド 春の号』にて  
あべ美幸作の BL コミック『SUPER LOVERS』アニメ化企画進行中の情報が出る。  
エメラルド該当号 <http://www.amazon.co.jp/dp/BOOTZ9IMWK>  
SUPER LOVERS 第 8 巻 <http://www.amazon.co.jp/dp/4041033004/>

2015 年 5 月 1 日

集英社コバルト文庫より刊行の桑原水菜作の小説『炎の蜃気楼 (ミラージュ)』  
シリーズの一篇『瑠璃燕ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』が10 月に舞台上演されるとの  
一報が集英社管理の公式サイト・WEB コバルトにて公開される。  
<http://cobalt.shueisha.co.jp/news/#mirageStage2>  
書籍情報 <http://www.amazon.co.jp/dp/4086018152>  
また、2015 年は原作者・桑原水菜のデビュー 25 周年にあたり、  
その関連事象もいくつかみられる。  
<http://cobalt.shueisha.co.jp/special/kuwabara25th/>

2015 年 5 月 10 日

BL作品を主力商品として展開している広島の中書局 <http://chuoshoten.co.jp/> が  
本社もあるサンモール店店内にブックカフェ『BOOK LABYRINTH』を開店。  
<http://booklabyrinth.jp/> <https://twitter.com/booklabyrinthjp>  
新規プロジェクトの一環。

2015 年 6 月 9 日

『炎の蜃気楼 (ミラージュ)』【集英社コバルト文庫刊】シリーズの一篇  
『瑠璃燕ブルース 炎の蜃気楼 昭和編』舞台版情報詳細【キャスト含む】が  
舞台公式ブログ及び原作者・桑原水菜の公式サイトより発信される。  
[http://blog.livedoor.jp/mirage\\_stage2015/archives/1030284542.html](http://blog.livedoor.jp/mirage_stage2015/archives/1030284542.html)  
<http://mizuna.info/view/932>  
トライフルエンターテインメントプロデュース  
公演日程：2015 年 10 月 8 日(木)～13 日(火)  
劇場：シアター 1010 (北千住)

2015 年 6 月 16 日

溝口彰子『BL 進化論 ポーイズラブが社会を動かす』(太田出版) 刊行。  
歴史的傍証も多数取り込んだ社会論。

2015 年 7 月 1 日

多摩美術大学有志より情報公開されていた 2015 年開催の  
多摩美術大学・芸術祭【文化祭】にて制作・出品予定の同大学を舞台に  
設定したオリジナル BL アンソロジー『TAMABL (タマブル)』。  
TAMABL (タマブル) [https://twitter.com/tamabl\\_](https://twitter.com/tamabl_)  
公式サイトが立ち上げられる。  
[https://twitter.com/tamabl\\_/status/616245238831538176](https://twitter.com/tamabl_/status/616245238831538176)  
<http://tamabl.tumblr.com/>  
外部に向け通販対応も計画されている模様。 → <http://tamabl.buyshop.jp/>

2015 年 7 月 14 日

2014 年 8 月 10 日に公開された Android 対応携帯電話ゲームアプリ  
『魔女っ子少年マジカルピース』の iOS 移植版発表時期について公式から発言あり。  
[https://twitter.com/magical\\_piece/status/620917039587135488](https://twitter.com/magical_piece/status/620917039587135488)  
<http://camp-fire.jp/updates/view/9972>

2015 年 7 月 23 日

西村マリ『BL カルチャー論 ポーイズラブがわかる本』(青弓社) 刊行。  
版元公式サイト連載をまとめたもの+α。参考資料リストがかなり詳細。

2015 年 7 月 26 日

米国メリーランド州ボルチモアコンベンションセンターにて開催の  
OTACON 2015 <http://www.otakon.com/> (現地時間 7 月 24 日～26 日開催) 席上にて  
米国ロサンゼルスに本拠を置く企業 SEKAI PROJECT <http://sekaiproject.com/> が  
2014 年 8 月 10 日に公開された本邦の Android 対応携帯電話ゲームアプリ  
『魔女っ子少年マジカルピース』の英訳配信プロジェクトを発表。  
<http://rosemaryhouse.com/mp/info04.html>  
<http://www.ustream.tv/recorded/68824528>  
<http://figurativelyspeaking.me/2015/07/25/sekai-project-to-localize-witch-boy-magical-piece-via-kickstarter/>

2015年8月20日

玄光社より『はじめての人のためのBLガイド』刊行。  
作家インタビュー・クロニクル・作品紹介等コミック中心の内容を盛り込む。  
オールカラー。

2015年9月23日

4月30日に『CIEL 27年6月号 増刊 エメラルド 春の号』にて報じられた  
あべ美幸作のBLコミック『SUPER LOVERS』アニメ化企画。

公式ツイッターを開設し本格的に情報公開に踏み切る。

<https://twitter.com/SUPERLOVERSinfo>

<https://twitter.com/SUPERLOVERSinfo/status/646723981463023616>

2015年11月6日

鶴ゆみか『もはや私は貴腐人です』（講談社 KC デラックスヤングマガジン）刊行。  
様々な会場を利用する女子会ブームの中、娯楽の一環として行ったラブホテルにおける  
女子会のレポート漫画を発端として商業規格が成立し刊行に至った。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4063773485>

レポート漫画 [http://www.pixiv.net/member\\_illust.php?mode=medium&illust\\_id=46287353](http://www.pixiv.net/member_illust.php?mode=medium&illust_id=46287353)

顛末インタビュー <http://www.pixivision.net/ja/a/1034>

2016年7月20日、第2巻が刊行された。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4063774872>

2015年11月16日

本邦で発行されたマンガ・アニメ・ラノベ・エンタメ小説の内、世界に通用する・  
通用させたい作品を国民投票によって選ぶ試み、「SUGOI JAPAN Award2016」  
エントリー作品がWEB その他で公開される。

<http://sugoi-japan.jp/>

マンガ部門においてヨネダコウ作『囀る鳥は羽ばたかない』がエントリーされる。

[http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m\\_20\\_sae.html](http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m_20_sae.html)

国民投票の結果は2016年3月22日公表予定との事。

2015年11月25日

ブリンクコミックスデジタル（ホーム社・集英社）より配信の電子書籍、  
ことり野デス子「フダンシ革命」第2巻の巻末企画（対談）において、  
実在の腐男子、ぶどううり・くすこ（当記録記者）が登場し、  
諸々述べている。

【※先行配信された媒体もあるが、この記録では公式配信開始日を典拠とした】

ホーム社による特設サイトにも対談の一部及び余談が掲載された。

<http://weblink.homesha.jp/fudanshikakumei2/>

2015年12月1日

2014年2月1日に『Station』刊行をもって完結したごとうしのぶ著の  
BL小説【タクミくんシリーズ】の電子合本版が刊行される。

<http://www.kadokawa.co.jp/ruby/special/2203.php>

また、2016年3月刊行開始の全11巻にわたる完全版の告知もなされる。  
全作品を作中時系列に従って再構成し、本文・挿画の描き下ろしを加える等  
新たな息吹を吹き込まれた版となる予定。

2015年12月25日

4月30日に『CIEL 27年6月号 増刊 エメラルド 春の号』にて報じられた  
あべ美幸作のBLコミック『SUPER LOVERS』アニメ化企画。

公式サイト開設される。

<http://superlovers-anime.com/>

2016年4月よりTVアニメ化との報。

→第1期の放映を終え、2017年1月より第2期放映決定の報あり。

2016年1月21日

サンキュータツオ・春日太一の共著『俺たちのBL論』（河出書房新社）刊行される。  
<http://www.amazon.co.jp/dp/4309024416>

初版本文中に記述はないが、内容初出は版元主催イベント「河出クラブ（かわくら）」内「サンキュータツオ×春日太一の文化系食わず嫌い克服講座——BLの豊饒な世界」（2014年9月28日及び2015年2月8日開催。於・東京堂書店）とみられる。

以下参照記録

第1回記録動画特集 <http://st.wowow.co.jp/special/detail/119>

版元による第2回開催告知 <http://www.kawade.co.jp/news/2014/11/28.html>

版元による刊行記念第3回開催告知。トークライブを書籍化した本であるとの言及。  
<http://www.kawade.co.jp/news/2016/01/2672.html>

2016年2月3日

米国サンフランシスコにて9月に開催されるYAOI-CON 2016 <http://yaoicon.com/> の本邦からの招聘漫画家ゲストが高永ひなこであると公表される。

<https://twitter.com/junemanga/status/694987256482762752>

<http://www.yaoicon.com/guests.php>

<https://twitter.com/yaoicon/status/695347615550943235>

2016年3月22日

本邦で発行されたマンガ・アニメ・ラノベ・エンタメ小説の内、世界に通用する・通用させたい作品を国民投票によって選ぶ試み、「SUGOI JAPAN Award2016」エントリー作品がWEB その他で公開される。

<http://sugoi-japan.jp/>

マンガ部門においてヨネダコウ作『囁る鳥は羽ばたかない』がエントリーされる。

[http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m\\_20\\_sae.html](http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m_20_sae.html)

国民投票の結果、同作は部門第4位に決定した。

[https://twitter.com/sugoi\\_japan\\_jp/status/712183026373951490](https://twitter.com/sugoi_japan_jp/status/712183026373951490)

<http://sugoi-japan.jp/sugoi/result.html>

2016年4月21日

2015年9月及び2016年4月に刊行された、みちのくアタミ作『腐男子高校生活』（一迅社ゼロサムコミックス）がアニメ化され、7月より放映されるとの一報有。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4758031150>

<https://www.amazon.co.jp/dp/4758031797>

[https://twitter.com/anime\\_fudanshi/status/723119098045976576](https://twitter.com/anime_fudanshi/status/723119098045976576)

<https://twitter.com/atami211/status/723147589982392321>

[https://twitter.com/comic\\_zerosum/status/723169052600885248](https://twitter.com/comic_zerosum/status/723169052600885248)

<http://www.dreamcreation.co.jp/fudanshi/>

5分間形式放映。

2016年5月7日

2011年7月9日に開校（開店）の男子高+ボーイズラブをコンセプトとしたカフェバー“池袋男子BL学園”が大阪難波に大阪校を開校（開店）。

<http://ameblo.jp/blcafe/entry-12157744633.html>

[https://twitter.com/BLcafe\\_osaka](https://twitter.com/BLcafe_osaka)

[http://nippon-bashi.biz/news/20160607\\_ikebukuroblcafe.html](http://nippon-bashi.biz/news/20160607_ikebukuroblcafe.html)

2016年5月8日

リブレ出版株式会社【旧ビブロス←青磁ビブロス】が株式会社リブレに社名変更。

[https://libre-inc.co.jp/news/detail.php?news\\_id=70](https://libre-inc.co.jp/news/detail.php?news_id=70)

創設10周年の節目に、との事。総合コンテンツ会社としての出発点。

2016年5月27日

2014年10月刊行「ひだまりが聴こえる」及び2016年5月刊行

「ひだまりが聴こえる—幸福論—」（文乃ゆき/プランタン出版カンナコミックス）の実写映画化決定との一報が流れる。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4829685611>

<https://www.amazon.co.jp/dp/4829685808>

<http://natalie.mu/eiga/news/188691>

<http://natalie.mu/comic/news/188688>

なお、発表時点では詳細は一切不詳。公式サイトも開設されていない。

2016年6月30日

桜雲社よりかつくら編集部名義で

『あの頃のBLの話をしよう(ボーイズラブインタビュー集)』刊行される。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4908290202>

ボーイズラブと言う言葉が生み出された当時の事を当事者達のインタビューから  
解き明かす試み。

登壇者は以下5名。

よしながふみ(漫画家)

こだか和麻(漫画家)

松岡なつき(小説家)

霜月りつ(小説家、イメージ編集長・あらかきりつこ/小説家・白城るた)

太田歳子(株式会社リブレ取締役社長、MAGAZINE BE × BOY 初代編集長・牧歳子)

また、コラム執筆者として三崎尚人(まんが評論家・同人誌研究家)、高狩高志(書店員)が  
登壇。

三崎氏のコラムにて、参考資料として当回顧録20160322版を用いて戴いたとの事。

【参考】感想・反応纏め together <http://together.com/li/999304>

2016年7月22日

1982年4月にアニメ化された魔夜峰央・作『パタリロ!』、舞台化キャスト発表。

<http://www.nelke.co.jp/stage/pataliro/>

6月25日の時点で舞台化発表はあったものの、その時点では一切が伏せられていた。

<http://www.oricon.co.jp/news/2074040/full/>

<http://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1606/25/news036.html>

\*\*\*\*

公演期間：2016年12月8日(木)～25日(日)

東京・紀伊國屋ホールにて

原作「パタリロ!」魔夜峰央

脚本：池田鉄洋

演出：小林顕作

配役：

パタリロ：加藤諒

マライヒ：佐奈宏紀

タマネギ部隊：細貝圭・金井成大・石田隼・吉本恒生

魔夜メンズ：

佐藤銀平・吉川純広・三上陽永・柴一平(Wキャスト)・香取直登(Wキャスト)

パンコラン：青木玄徳

2016年10月22日

2016年5月27日に実写化の一報があった

2014年10月刊行「ひだまりが聴こえる」及び2016年5月刊行

「ひだまりが聴こえる—幸福論—」(文乃ゆき/プランタン出版カンナコミックス)。

<https://www.amazon.co.jp/dp/4829685611>

<https://www.amazon.co.jp/dp/4829685808>

キャストが公開され、公式サイトも開設される。

2017年初夏公開との由。

<http://hon-hikidashi.jp/enjoy/19223/>

<http://hidamari-kikoeru.com/>

2016年11月16日

本邦で発行されたマンガ・アニメ・ラノベ・エンタメ小説の内、世界に通用する・

通用させたい作品を国民投票によって選ぶ試み、「SUGOI JAPAN Award2017」

エントリー作品がWEBで公開される。

<http://sugoi-japan.jp/>

今般より完全WEBベース運営である模様。

マンガ部門において宝井理人作『テンカウント』が、

[http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m\\_10\\_ten.html](http://sugoi-japan.jp/nominees/manga/m_10_ten.html)

アニメ部門で中村明日美子原作『同級生』がそれぞれノミネートされる。

[http://sugoi-japan.jp/nominees/anime/a\\_13\\_dou.html](http://sugoi-japan.jp/nominees/anime/a_13_dou.html)

国民投票の結果は2017年3月16日公表予定との事。

2016 年 11 月 24 日

幻冬舎より刊行の日高ショーコ作『花は咲くか』（全 5 巻・ルチルコミックス）

1 巻 <https://www.amazon.co.jp/dp/434481827X/>

5 巻 <https://www.amazon.co.jp/dp/4344833856/>

実写化の一報が雑誌『ルチル』編集部公式ブログにて開陳される。

<http://rutile-official.jp/blog/rutile-collection/3458.html>

詳細続報は後日にてとの由。

2016 年 11 月 30 日

KADOKAWA 刊行のコミック誌『CIEL』、紙媒体としては

同日刊行の 2017 年 1 月号にて休刊との由。

<http://shoten.kadokawa.co.jp/ciel/>

2017 年 1 月 30 日以降電子書籍版として復刊との事。

○●○

BLlogia 準備室 <http://bllogia.wordpress.com/>

及び

作成者自サイト <http://xqo.ooh.jp/cc/by-sa/index.shtml>

より無償提供。